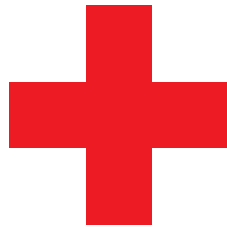


令和4年度

事業報告書



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society



日本赤十字社静岡県支部

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人 道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公 平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中 立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独 立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉 仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単 一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

目 次

I 支部事業・一般会計決算概要

1 災害救護活動	1
2 赤十字看護師養成事業	11
3 赤十字講習普及活動	12
4 赤十字奉仕団活動	18
5 青少年赤十字活動	26
6 国際活動	31
7 社業振興事業	34
8 評議員会	40
9 一般会計決算概要	41

II 医療事業・医療施設特別会計決算概要

1 静岡赤十字病院	44
2 浜松赤十字病院	47
3 伊豆赤十字病院	50
4 引佐赤十字病院	53
5 裾野赤十字病院	56

III 血液事業概要

静岡県赤十字血液センター	59
--------------------	----

IV 資 料

1 静岡県支部役職員名簿・奉仕者組織役員名簿	63
2 令和4年度主要行事一覧	68
3 日本赤十字社静岡県支部の機構及び沿革	69
4 日本赤十字社静岡県支部施設一覧	72
5 医療施設概況	73

I 支部事業・一般会計決算概要

静岡県支部は、地区分区、奉仕団、協賛委員、有功会、青少年赤十字、ボランティア及び管内各施設などと連携して赤十字活動を行っている。

本年度も、新型コロナウイルスの流行状況に応じた感染予防対策を講じて、災害救護、赤十字講習普及、奉仕団、青少年赤十字等の事業を行った。

また、事業活動の財源となる社資は、概ね予算どおり確保することができた。

1 災害救護活動

日本赤十字社の災害救護活動は、赤十字の使命に基づいた人道的任務として行う事業である。同時に国が認める救護団体としての活動でもあり「災害対策基本法」をはじめ「災害救助法」や「国民保護法」では、国、県または市町の行う業務に対する協力義務が定められている。

静岡県支部では、これらの災害救護活動に備えて、法律に基づいて「静岡県支部防災業務計画」や「静岡県支部国民保護救護計画」を策定している。加えて本社作成の「東海地震、東南海・南海地震、南海トラフ地震、首都直下地震及び日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震の対応計画」と静岡県発表の「静岡県第4次地震被害想定」を踏まえ、災害に即時対応できるよう常備救護班を編成し、訓練や研修を行い、救護装備を整備するなど、救護体制の強化・充実を図っている。

さらに、日常の火災や風水害等による住家の焼失、損壊などの被災者に対して、災害救援品を交付する活動を続けている。

(1) 災害への対応

ア 令和4年台風第15号災害

9月23日夜のはじめ頃から24日明け方にかけて、静岡県では台風第15号の影響で猛烈な雨が降り、記録的短時間大雨情報が発表された。

この台風の影響によって、中・西部地域を中心に土砂災害や河川の氾濫が発生し、死者3名、負傷者19名の人的被害と全壊9世帯、半壊2,543世帯、準半壊1,117世帯、一部損壊149世帯、床上浸水1,103世帯の住家被害が生じた。

静岡県支部は、9月24日から事業推進課員を中心とした第一次救護体制で対応にあたり、情報収集を行ったほか、静岡市、掛川市、袋井市、磐田市、浜松市、森町の被災者に対し、各地区分区を通じて災害救援品を配付した。

さらに、静岡県義援金募集・配分委員会の設置に伴い、9月29日から12月28日まで義援金を募集し、県内外から多くの義援金を受け付けた。

(ア) 災害救援品の配付

地区区分名	毛布(枚)	緊急セット(個)	タオルセット(個)	下着セット(個)	
				男性	女性
静岡市葵・駿河区	0	28	61	34	34
静岡市清水区	96	6	1,193	11	20
掛川市	6	2	6	2	4
袋井市	1	1	1	1	1
磐田市	18	0	0	0	0
浜松市中区	4	7	6	3	5
浜松市東区	3	0	3	2	1
浜松市浜北区	3	14	31	1	1
浜松市天竜区	2	1	1	1	0
森町	11	5	35	1	4
計	144	64	1,337	56	70

(イ) 義援金の受付（義援金名：令和4年台風第15号災害静岡県義援金）

受付期間	令和4年9月29日から令和4年12月28日
受付方法	銀行振込 全国の赤十字施設及び日赤担当窓口
義援金額	2,660件 123,429,716円（内静岡県支部受付分：37,809,557円）

このほかの国内義援金受付状況は、10ページに掲載のとおり。



▲支部における情報収集対応



▲災害救援品の積み込み

(2) 救護体制の整備

ア 救護員の登録

大規模災害などが発生した場合に、救護活動を迅速かつ適切に実施するため「静岡県支部救護員登録並びに常備救護班等編成要領」に基づき救護員（災害対策本部要員、救護班要員、血液供給要員）を登録している。

イ 常備救護班の編成

「日本赤十字社救護規則」及び「静岡県支部救護員登録並びに常備救護班等編成要領」に基づき、5つの赤十字病院に11の常備救護班を編成し、災害発生時の救護活動に備えている。

なお、日本赤十字社全体では、常備救護班を485班（令和4年3月31日現在）編成している。

<常備救護班>

施設名	救護班数 (班)	救護班要員(人)						
		医師	看護師長	看護師	助産師	薬剤師	主事	計
静岡赤十字病院	5	5	5	20	1	4	14	49
浜松赤十字病院	3	3	3	6	1	3	6	22
伊豆赤十字病院	1	1	1	2	0	1	2	7
引佐赤十字病院	1	1	1	4	0	1	2	9
裾野赤十字病院	1	2	2	3	0	2	6	15
計	11	12	12	35	2	11	30	102

ウ 血液供給要員の配置

「静岡県支部救護員登録並びに常備救護班等編成要領」に基づき、災害などが発生した場合に備えて血液センターに血液供給要員を配置している。

<血液供給要員>

施設名	血液供給要員(人)
静岡県赤十字血液センター（静岡市）	4
〃 沼津事業所	7
〃 浜松事業所	4
計	15

エ 赤十字防災ボランティアの登録

災害などが発生した場合に活動する赤十字防災ボランティアは、被災地の復旧・復興に欠くことのできない存在となっている。

赤十字奉仕団員や個人ボランティアなどが122人登録しており、そのうちリーダーが15人、地区リーダーが69人となっている。

（３）災害救護訓練及び研修の実施

新型コロナウイルスの影響で中止していた「静岡県支部・県内赤十字病院合同災害救護訓練」をWebによる訓練へと変更して3年ぶりに実施したほか、感染対策を徹底した上で参集して行われた「日本赤十字社第3ブロック支部合同災害救護訓練」等に参加した。また、救護員が災害救護活動の基礎的な知識・技術を習得することを目的に「救護員災害救護基礎研修」等を感染対策に十分に留意して3年ぶりに実施した。

ア 災害救護訓練

訓練名	開催日	主催	会場	参加者数
静岡県総合防災訓練 (本部運営訓練)	8月30日	静岡県	静岡県庁	静岡県支部 2 静岡赤十字病院 5
静岡県・島田市・牧之原市・ 吉田町・川根本町 総合防災訓練	9月4日	静岡県・島田市・ 牧之原市・吉田 町・川根本町	島田市立島 田第一中学 校	静岡県支部 4 静岡赤十字病院 11
大規模地震時医療活動訓練	10月1日	内閣府	航空自衛隊 浜松基地、 静岡県西部 地域局(磐 田市) 他	静岡県支部 3 静岡赤十字病院 7 浜松赤十字病院 5
日本赤十字社静岡県支部・県 内赤十字病院合同災害救護 訓練	10月15日	静岡県支部	静岡県支部、 県内赤十字 病院	静岡県支部 4 静岡赤十字病院 14 浜松赤十字病院 6 伊豆赤十字病院 8 引佐赤十字病院 9 裾野赤十字病院 10
日本赤十字社第3ブロック 支部合同災害救護訓練	11月3日	日本赤十字社 第3ブロック支部	諏訪赤十字 病院	静岡県支部 6 浜松赤十字病院 6
緊急消防援助隊全国合同訓練	11月13日	総務省消防庁	施工技術総 合研究所 (富士市)	静岡県支部 2 静岡赤十字病院 6 伊豆赤十字病院 7 裾野赤十字病院 4
日本赤十字社第2ブロック 支部総合訓練	11月19日 20日	日本赤十字社 第2ブロック支部	秦野赤十字 病院、秦野 市内小中学 校 他	静岡県支部 3 静岡赤十字病院 11
地震対策オペレーション 2023	1月17日	静岡県	静岡県庁	静岡県支部 2 静岡赤十字病院 6
静岡県原子力防災訓練	2月4日	静岡県	新東名高速 道路浜松サ ービスエリ ア	静岡県支部 1 浜松赤十字病院 2



▲災害対策本部の運営支援を行う職員

【日本赤十字社第3ブロック支部合同災害救護訓練】



▲避難所の巡回診療を行う救護班

【日本赤十字社第2ブロック支部総合訓練】

イ 災害救護研修

研修名	開催日	主催	会場	参加者数
救護員基礎研修	6月15日	静岡県支部	静岡県支部	管内職員 18
	6月20日			管内職員 20
救護員 dERU 展開研修（学科）	7月22日	静岡県支部	Web	管内職員 36
救護員 dERU 展開研修（実技）	8月6日	静岡県支部	裾野赤十字病院	管内職員 4
	8月10日	静岡県支部	駿府城公園	管内職員 20
	8月16日	静岡県支部	伊豆赤十字病院	管内職員 6
	8月25日	静岡県支部	浜松赤十字病院	管内職員 23
こころのケア 指導者養成研修会	11月16日 ～11月17日	本社	本社	引佐赤十字病院 1
災害派遣チーム （静岡 DMAT） 隊員養成研修	12月10日 ～12月11日	静岡県	静岡県立総合病院	静岡赤十字病院 3
災害派遣チーム （DMAT） 隊員養成研修	1月17日 ～1月20日	厚生労働省	サーラシティ、 富士山静岡空港	浜松赤十字病院 1
日赤災害医療 コーディネート 研修会	1月21日 ～1月22日	本社	本社	静岡赤十字病院 1
全国赤十字救護班 研修会	2月11日 ～2月12日	本社、 愛知県支部	名古屋第二病院	静岡赤十字病院 4

※管内職員とは、静岡県支部、県内赤十字病院及び血液センターの職員。

（４）災害救援品の備蓄と交付

ア 災害救援品の備蓄

火災、風水害、地震などに備えて災害救援品を備蓄している。本年度は、台風第15号災害等水害の影響でタオルセットの払出が多かったものの、従前からの備蓄で充足できたため、補充は行わなかった。

また、従前から備蓄している下着セットに加え、災害時の避難所での利便性を考慮し、使い捨て下着セットを整備した。

＜災害救援品払出・補充状況＞

令和5年3月31日現在

	前年度末	払出（内訳：受払）				補充	本年度末
		交付			計		
毛布(枚)	7,934	302			403	0	7,531
緊急セット(個)	3,219	134			137	0	3,082
タオルセット(個)	11,873	1,639			1,641	0	10,232
下着セット(個)	男性	2,738			139	0	2,599
	女性	2,709			134	0	2,575
使い捨て 下着セット(個)	男性	0			1※検品	1,000	999
	女性	0			1※検品	1,000	999
タオルケット(枚)	2,290	0			0	0	2,290
安眠セット(個)	1,230	0			0	0	1,230
プライバシーテント(張)	60	0	0	0	0	0	60

＜災害救援品保管場所別備蓄状況＞

令和5年3月31日現在

		計	支部倉庫	支部倉庫	伊豆病院	血液 C	浜松病院	引佐病院	地区区分
			(追手町)	(国吉田)	倉庫	沼津倉庫	倉庫	倉庫	分置
毛布(枚)		7,531	158	1,750	690	1,540	1,900	599	894
緊急セット(個)		3,082	109	828	228	588	750	60	519
タオルセット(個)		10,232	2,539	900	1,200	1,780	1,500	300	2,013
下着セット(個)	男性	2,599	470	0	299	520	540	0	770
	女性	2,575	441	0	299	520	540	0	775
使い捨て 下着セット(個)	男性	999	399	0	100	200	300	0	0
	女性	999	399	0	100	200	300	0	0
タオルケット(枚)		2,290	120	1,370	0	400	400	0	0
安眠セット(個)		1,230	0	350	0	420	360	100	0
プライバシーテント(張)		60	2	48	0	10	0	0	0



▲使い捨て下着セット

イ 災害救援品及び災害死亡者弔慰金の交付

県内で発生した火災、風水害などによる被災者に対し地区区分を通じて、毛布、緊急セット、タオルセット、下着セットの災害救援品や災害死亡者弔慰金を交付した。

＜本年度の災害救援品及び災害死亡者弔慰金交付状況＞

地区区分名	被災者		災害救援品				災害死亡者 弔慰金(円)
	世帯	人数	毛布	緊急セット	タオルセット	下着セット	
下田市	2	2	1	1	2	2	0
伊豆市	4	6	8	3	4	4	0
三島市	2	3	1	1	1	1	10,000
沼津市	3	3	0	0	0	0	30,000
裾野市	1	1	1	1	1	0	0
富士宮市	2	8	7	2	7	7	10,000
富士市	2	8	8	2	8	0	10,000
静岡市清水区	13	28	107	9	1,202	42	20,000
静岡市葵・駿河区	48	103	28	43	95	94	0
焼津市	2	7	7	3	7	7	0
藤枝市	5	7	8	6	7	8	0
島田市	1	4	4	1	4	4	0
牧之原市	2	3	14	2	4	6	0
御前崎市	1	2	4	1	2	2	0
掛川市	20	32	21	7	19	29	0
袋井市	2	4	4	2	4	5	10,000
磐田市	11	25	36	4	8	8	0
浜松市中区	10	20	9	10	11	13	0
浜松市東区	6	15	8	5	9	14	0
浜松市西区	3	10	0	3	10	8	0
浜松市南区	1	3	2	1	2	2	10,000
浜松市北区	1	2	0	0	2	2	0
浜松市浜北区	18	44	3	15	35	2	0
浜松市天竜区	1	1	2	1	1	1	0
湖西市	2	4	4	2	4	4	0
南伊豆町	1	1	2	1	1	1	0
松崎町	17	51	0	0	150	0	0
小山町	2	3	0	2	3	1	10,000
川根本町	1	1	2	1	1	1	0
森町	57	94	11	5	35	5	0
計	241	495	302	134	1,639	273	110,000

(5) 救護装備の整備

静岡県支部、病院、血液センター、地区分区に救護用車両、倉庫、機材を整備している。

本年度は、災害救護活動の充実を図るため、病院で使用する仮設救護所用装備（エアートント、発電機、投光器）や救護用車両を更新したほか、地区分区に救護用倉庫 4 棟を整備した。

＜救護用装備一覧＞

令和 5 年 3 月 31 日現在

品名		支部	病院	血液 センター	地区 分区	計	本年度の整備、 更新数	
救護用車両		9	21	—	66	96	病院	更新 4 台
救護用倉庫		2	3	1	114	120	地区分区 地区分区	更新 2 棟 増設 2 棟
機 材	dERU 一式	1	—	—	—	1		
	医療セット	2	10	—	—	12		
	携帯型医療セット	0	5	—	—	5		
	放射線防護服セット	7	77	—	—	84		
	テント	11	8	—	—	19		
	エアートント	1	7	—	—	8	病院	更新 1 張
	担架	10	29	—	—	39		
	折畳寝台	52	299	—	—	351		
	発電機	6	14	1	—	21	病院	更新 1 台
	投光器	2	11	—	—	13	病院	更新 1 台
	浄水装置	1	1	—	—	2		
	災害対策本部用ノートパソコン	10	—	—	—	10		
	情報収集用タブレット端末	1	—	—	—	1		
	モバイル Wi-Fi ルーター	1	—	—	—	1	支部	新規 1 台
	救護班用ノートパソコン	—	9	—	—	9		
	簡易トイレ	34	109	—	—	143		
	備蓄食料（単位：食）	252	252	—	—	504	支部 病院	更新 252 食 更新 252 食
	備蓄飲料水（単位：本/500ml）	576	576	—	—	1,152	支部 病院	更新 240 本 更新 240 本
	支部災害対策本部代替設備*	—	—	1	—	1		
	衛星電話	3	8	6	—	17		
	災害時優先電話 （回線数）	固定電話	2	7	3	12		
		携帯電話	3	5	6	14		
	業務用無線機	基地局	2	2	—	4		
		移動局	48	38	25	111		
	簡易アンテナセット	2	5	—	—	7		

* 災害対策本部用資機材、業務用無線アンテナ設備、備蓄食料 他



▲仮設救護所装備（エアーテント）



▲地区区分救護用倉庫



▲施設災害救護用車両



▲モバイル Wi-Fi ルーター

（６）国内義援金の受付

国内で災害が発生したときに本社や関係機関との協議に基づいて義援金の募集を行っている。
静岡県支部が受け付けた義援金は、下表のとおりである。

令和５年３月３１日現在

義援金名	金額(円)	
	本年度分	累計
平成 30 年 7 月豪雨災害義援金	456,463	182,004,162
令和 2 年 7 月豪雨災害義援金	134,771	41,512,275
令和 4 年 3 月福島県沖地震災害義援金	146,207	219,702
令和 4 年 7 月大雨災害義援金	223,325	同左
令和 4 年 8 月 3 日からの大雨災害義援金	528,402	同左
令和 4 年台風第 15 号災害義援金	37,809,557	同左
計	39,298,725	262,297,423

（７）臨時救護所の開設

高齢者・障がい者(児)の団体主催の行事に赤十字看護奉仕団の協力を得て臨時救護所を開設し、来場者等を対象として応急手当等の救護活動を行った。

＜本年度の臨時救護所開設状況＞

活動内容	開設回数	実施延日数	延派遣者数
高齢者・障がい者等の各種行事	31	31	61

2 赤十字看護師養成事業

日本赤十字社の看護師は、保健医療をはじめとして災害救護や国際救援など多岐にわたり活動する必要がある。

静岡県支部では、これらの業務に対応できる看護に関する幅広い能力を持った赤十字看護師を養成するため、愛知県豊田市にある日本赤十字豊田看護大学の学生を対象とした奨学金制度を設けている。

本年度は 28 人の奨学生が在学しており、うち 4 年生（第 16 期生）8 人が県内赤十字病院に入職する予定である（静岡 3 人、浜松 4 人、伊豆 1 人）。

また、県内の赤十字病院に対して、本社及び看護協会等が実施する看護師研修への参加費用や看護師確保のための募集広告費用を助成した。

＜本年度の日本赤十字豊田看護大学奨学生＞

1 年	2 年	3 年	4 年	計
5 人	9 人	6 人	8 人	28 人



▲日本赤十字豊田看護大学での演習の様子

3 赤十字講習普及活動

講習普及活動にあたり、新型コロナウイルスの感染対策として、昨年に引き続き参加者の体調確認、マスクの着用、3密の防止に加え、実技前後の手指消毒や、器材消毒の徹底などを十分に講じた上で、受講者同士の接触を伴う実技を再開した。

健康で安全な生活を送るための知識と技術を身につけることを目的とした4つの赤十字講習（「赤十字救急法」「赤十字水上安全法」「赤十字健康生活支援」「赤十字幼児安全法」と、減災をテーマに災害や避難所生活に役立つ知識と応急手当を学ぶ「赤十字減災セミナー」や小中学生を対象とした「赤十字BLS*入門講座」、衣服を着たまま水に落ちた場合の浮き身の取り方や水に入らない救助法等を学ぶ「着衣泳講習」を普及するため、多くのボランティア指導員と各地区分区の協力を得ながら県内各地で講習を開催した。

また、コロナ禍以降3年ぶりとなる赤十字救急法競技会を開催し、日常生活における安全意識の向上とボランティアの連携を強化する親睦の場とした。

*BLS（Basic Life Support：一次救命処置）

心肺蘇生（胸骨圧迫と人工呼吸）やAED（Automated External Defibrillator：自動体外式除細動器）を用いた除細動など、心臓や呼吸が停止した傷病者を救命するために行う緊急処置

（1）赤十字救急法講習

赤十字救急法講習は「病気やけが、災害から自分自身を守るとともに、傷病者を正しく救助し、医師または救急隊などに引き継ぐまでのBLSと応急手当を学ぶ講習」である。

本年度から、呼吸吹き込みを除く実技を再開したことに加え、教本の改定に伴い、日本蘇生協議会ガイドライン2020に準拠した新しい内容でスタートした。

また、救急法のさらなる普及のため、実施計画に基づき救急法指導員養成講習を開催し、新たに14人の指導員が誕生した。

＜本年度の赤十字救急法講習実施状況＞

講習区分	計画回数	実施回数	受講実人数	開催地区分区実数	指導員延人数
指導員養成講習	1	1	15	1市	24
基礎講習	70	73	1,379	12市 2町	190
救急員養成講習	40	46	879	9市	237
短期講習	200	173	3,744	20市 3町	364
BLS入門講座	50	37	1,992	9市	86
計	361	330	8,009	(21市 4町)	901



▲接触を伴う実技の再開（短期講習）



▲指導員養成講習での実技確認

（２）赤十字水上安全法講習

赤十字水上安全法講習は「水を活用して健康の増進を図るため、また水の事故から生命を守るために、泳ぎの基本や溺れた人を正しく救助する方法などの知識と技術を学ぶ講習」である。

本年度は、遊泳施設での事故防止、救助方法の知識や技術を身につける「救助員Ⅰ養成講習」をはじめ、自然水域での事故防止に関する知識と技術を身につける「救助員Ⅱ養成講習」を再開した。

また、昨年度に引き続き、小・中学生を対象に「着衣泳」、「水に入らないレスキュー」を実施し、落水時の対応や、プールや河川等における自己保全、ペットボトルなど身近なものを使った救助の方法の普及に努めた。

＜本年度の赤十字水上安全法講習実施状況＞

講習区分	計画回数	実施回数	受講実人数	開催地区区分実数	指導員延人数
救助員Ⅰ養成講習	7	4	63	3市	105
救助員Ⅱ養成講習	1	1	7	1市	30
短期講習	15	14	391	6市	30
着衣泳	70	49	1,332	16市	230
水に入らないレスキュー		31	1,222	7市 3町	135
計	93	99	3,015	(19市 3町)	530



▲溺者の救助（救助員Ⅰ養成講習）



▲指導員が浮身を補助（着衣泳）

（３）赤十字健康生活支援講習

赤十字健康生活支援講習は「自身が高齢期を迎える前からの健康管理、高齢者の自立に向けた介護のほか、高齢者への理解、地域における高齢者支援などについて学ぶ講習」である。

本年度は、ベッドでの介助や車椅子への移乗などの実技を行う支援員養成講習を再開したほか、中高生の授業時間（50分）に合わせた短期講習の実施や、新型コロナウイルスの感染対策として、一般の方を対象としたオンライン講習も開催した。

＜本年度の赤十字健康生活支援講習実施状況＞

講習区分	計画回数	実施回数	受講実人数	開催地区区分実数	指導員延人数
支援員養成講習	11	3	23	3市	18
短期講習	40	16	442	8市	24
災害時高齢者生活支援講習	20	7	89	4市	13
計	71	26	554	(10市)	55



▲車椅子への移乗（支援員養成講習）



▲オンラインで行った講習（短期講習）

（４）赤十字幼児安全法講習

赤十字幼児安全法講習は「子どものいのちを守り社会全体で大切に育てるために、子どもに起こりやすい事故の予防と手当の方法、家庭内での看病や災害時における支援など、生活の中で役立つ知識と技術を学ぶ講習」である。

本年度は、日本蘇生協議会ガイドライン 2020 への準拠にあわせて、教本内容の大幅な見直しが行われ、新たな内容で支援員養成講習を再開した。

また、新型コロナウイルスの影響により、令和 2 年度から延期となっていた幼児安全法指導員養成講習を開催し、新たに 7 人の指導員が誕生した。

＜本年度の赤十字幼児安全法講習実施状況＞

講習区分	計画回数	実施回数	受講実人数	開催地区分区実数	指導員延人数
指導員養成講習	1	1	7	1 市	24
支援員養成講習	12	7	79	—	46
短期講習	50	54	945	13 市 1 町	96
災害時における乳幼児への対応講習		5	91	4 市	10
計	63	67	1,122	(13 市 1 町)	176



▲風呂敷を使った応用包帯（支援員養成講習）



▲指導員養成講習での実技確認

（５）赤十字減災セミナー

赤十字減災セミナーは、大規模災害が発生した時にその被害をできるだけ小さくする取り組みをテーマに、赤十字の持つ応急手当や避難所での過ごし方のノウハウを活用して自助、共助に役立てることを目的としている。

避難所などでの集団生活で役立つ、新聞紙を用いたスリッパやペーパーバッグの作製、エコノミークラス症候群の予防法のほか、本年度は毛布ガウンなどの複数人で行う実技を再開して講習を実施した。



▲毛布ガウンの実技

＜本年度の赤十字減災セミナー実施状況＞

対象区分	計画回数	実施回数	受講実人数	開催地区分区実数	指導員延人数
青少年赤十字加盟校	24	29	1,670	11 市	70
加盟校以外の小中高校	15	8	451	3 市	21
その他・一般	45	17	399	8 市 1 町	35
計	84	54	2,520	(16 市 1 町)	126

（６）赤十字救急法競技会

日頃から培った救急法の知識と技術を披露することで、その技術の向上と日常生活における安全意識を高めることや参加者相互の交流とボランティアの連携強化を目的として、１０回目となる赤十字救急法競技会を３年ぶりにグランシップで開催した。

講習では接触を伴う実技を再開していたが、参加者が多いことを考慮し、選手同士が非接触で実施できる内容に変更するなど、感染対策を取りながら競技を実施した。

また、清水海上保安部、静岡地方気象台、静岡市消防局や各赤十字奉仕団が活動紹介コーナーに出展したほか、親睦プログラムでは、「災害に備えて おうちの中の安全対策のススメ」について解説した。



▲非接触の競技（三角巾リレー）



▲競技ごとに器材消毒

◆開催日 令和４年１０月３０日（日）

◆会場 グランシップ（静岡市駿河区）

◆参加者 合計 ２９３人

※選手 １３５人（４５チーム）、観覧・応援者 ３５人、来賓 ５人、

スタッフ １１８人（ボランティア ５３人、実行委員 ８人、交流コーナー３７人、支部 ２０人）

※競技別参加チーム数＊

団体競技 三角巾８つ折り ４３（６）、三角巾リレー ３１（５）

ペア競技 心肺蘇生 ２０（３）

＊競技別参加チーム数の（ ）内は、高校生以下チームの再掲数

◆競技結果（上位入賞）

○団体競技 総合成績

<一般の部>

優勝	準優勝	第３位
浜松医療学院 柔整科 （浜松医療学院）	浜松医療学院 救急部 （浜松医療学院）	静岡県柔道整復師赤十字奉仕団 （静岡県柔道整復師赤十字奉仕団）

<高校生以下の部>

優勝	準優勝	第３位
藤枝東 （県立藤枝東高等学校）	三島南高 E （県立三島南高等学校）	三島南高 B （県立三島南高等学校）

○団体競技 種目別成績

<一般の部>

	優勝	準優勝	第3位
三角巾 8つ折り	浜松医療学院 柔整科 (浜松医療学院)	浜松医療学院 救急部 (浜松医療学院)	静岡県柔道整復師赤十字奉仕団 (静岡県柔道整復師赤十字奉仕団)
三角巾 リレー	浜松医療学院 柔整科 (浜松医療学院)	浜松医療学院 救急部 (浜松医療学院)	LOCO① (東海大学静岡キャンパス ライフセービングクラブ LOCO)

<高校生以下の部>

	優勝	準優勝	第3位
三角巾 8つ折り	三島南高 B (県立三島南高等学校)	三島南高 E (県立三島南高等学校)	藤枝東 (県立藤枝東高等学校)
三角巾 リレー	藤枝東 (県立藤枝東高等学校)	三島南高 E (県立三島南高等学校)	三島南高 B (県立三島南高等学校)

○ペア競技(心肺蘇生競技)

<一般・壮年の部>

優勝	準優勝	第3位
中野久美子・山本郁子 (富士宮防災ボランティアの会)	佐野明子・井出利恵 (富士宮防災ボランティアの会)	有留久美子・筒井和子 (富士宮防災ボランティアの会)

<一般・青年の部>

優勝	準優勝	第3位
瀧元沙苗・田中将也 (東海大学静岡キャンパス ライフセービングクラブ LOCO)	黒部幹太・牛澤帆夏 (東海大学静岡キャンパス ライフセービングクラブ LOCO)	柳田那智・島倉遥乃 (東海大学静岡キャンパス ライフセービングクラブ LOCO)

<高校生以下の部>

優勝	準優勝	第3位
山崎羽虹・長谷川結渚 (県立藤枝東高等学校)	村松愛佳・小沼柚羽 (県立藤枝東高等学校)	安藤百加・前島彩乃 (県立三島南高等学校)

◆活動紹介コーナー 計 10 団体

海上保安庁清水海上保安部、静岡地方気象台、静岡市消防局、浜松市浜北赤十字奉仕団
浜松市天竜赤十字奉仕団、掛川市赤十字奉仕団、青年赤十字奉仕団、点訳赤十字奉仕団
赤十字水上安全奉仕団、柔道整復師赤十字奉仕団

◆親睦プログラム

災害に備えて おうちの中の安全対策のススメ



▲関係団体の活動紹介



▲総合優勝(一般の部)
浜松医療学院 柔整科

4 赤十字奉仕団活動

赤十字奉仕団は、赤十字の理念である人道・博愛の精神のもと、人道的諸活動を実践しようとする人々によって結成されたボランティア組織である。

地域ごとに結成された「地域赤十字奉仕団」、青年や学生の若い世代が中心の「青年赤十字奉仕団」、専門技術を活かして特定の奉仕活動を行う人々で組織された「特殊赤十字奉仕団」が、それぞれの持ち味を活かした奉仕活動を展開している。

静岡県支部は、奉仕団の育成強化を図るため活動に必要な経費を交付するなど、各団の運営を積極的に支援した。（以下、掲載の役員氏名・団員数については令和5年3月31日現在）

（１）地域赤十字奉仕団ボランティア・リーダーシップ研修会の開催

地域赤十字奉仕団のリーダーとして必要な知識・技術の習得と奉仕活動の充実及び向上を図ることを目的として、新任委員長、将来のリーダーや中核的役割を担う奉仕団員を対象に同内容の研修会を実施した。

開催月日	会場	参加者数
7月7日（木）	コンベンション沼津（沼津市）	30
7月14日（木）	掛川グランドホテル（掛川市）	35

(2) 地域赤十字奉仕団活動活性化事業

社会福祉や地域に根ざした課題に取り組む地域赤十字奉仕団の活動を奨励するため「静岡県地域赤十字奉仕団活動活性化事業実施要綱」に基づき事業への助成を行った。

助成を受けた奉仕団は、新型コロナウイルスの感染対策に留意しながら事業を実施した。

＜地域赤十字奉仕団活動活性化事業の実施状況＞

奉仕団名	実施期間	事業名	助成額	活動内容
富士市	令和4年度	富士市生き生き赤十字奉仕団	67,220 円	・防災にかかる研修会を実施
掛川市	令和4年度	奉仕団活動をととして地域のつながりを深めよう	133,483 円	・地域包括ケアの勉強会の実施 ・炊き出し訓練 ・活動紹介チラシの作成
磐田市	令和4年度	地域のつながりを深めよう！防災力を高めて生活に役立てよう！	102,431 円	・一般の方と一緒に炊き出し ・応急手当の勉強会の実施 ・子育て支援センター支援
浜松市 三ヶ日	令和4年度	わくわく広場	151,154 円	・デイサービス等利用者を対象に行事を開催
浜松市 浜北	令和4年度	JRC 加盟校北浜北小学校との交流事業と炊き出しの普及活動、高齢者の介護予防活動、献血推進の協力	205,296 円	・JRC 加盟校での花壇づくり ・学校のキャラクター手作り ・献血処遇品を手作り ・ふるさと学級での炊き出しと防災教室
浜松市 佐久間	令和4年度	高齢者、障害のある人のQOL 向上の為の事業、福祉施設、自治会におけるボランティア	106,983 円	・買い物困難者への食事提供 ・障害者作業所で利用者と協働して除草 ・防災訓練での炊き出し訓練

(3) 地域赤十字奉仕団基礎研修会の実施

赤十字奉仕団員としての知識と技術の基礎を身につけるための研修会である。包装食袋を使用した炊き出し等の研修項目を各奉仕団が選択し、令和3年度から令和5年度の3カ年で全ての奉仕団が基礎研修を行うこととしている。

本年度は、前年度に新型コロナウイルスの影響を受けて中止した5団を含め18団が開催した。

＜基礎研修会の実施状況＞

開催日	奉仕団名	参加者(人)	会場
8月23日	焼津市大井川	14	大井川公民館
8月26日	静岡市葵・駿河	26	静岡市中央福祉センター
9月9日	浜松市雄踏	21	雄踏文化センター
9月16日	浜松市三ヶ日	25	三ヶ日協働センター
10月5日	浜松市佐久間	21	佐久間協働センター
11月2日	函南町	22	函南町保健福祉センター
11月8日	三島市	9	三島市生涯学習センター
11月10日	沼津市	40	片浜地区センター
11月15日	御殿場市	18	御殿場市市民交流センターふじざくら
11月16日	長泉町	11	長泉町納米里公会堂
11月22日	湖西市	16	湖西市健康福祉センター
11月29日	島田市	13	島田市川根文化センター
12月6日	袋井市	26	メロープラザ
1月27日	吉田町	21	吉田町住吉会館
1月29日	藤枝市岡部	25	藤枝市福祉センターきすみれ
2月2日	清水町	10	清水町福祉センター
2月8日	浜松市浜北	13	浜名協働センター
2月18日	御前崎市	19	佐倉地区センター
計(18団)		350	

(4) 災害時炊き出し体制の強化

災害時などに地域赤十字奉仕団員が使用する炊き出し器材を地区区分に整備した。

各地域の状況に応じて従来の800サイズ(釜の直径約82cm)と軽量で取り扱いが簡便な600サイズ(同約65cm)を選択できることとし、小規模訓練やイベントでの炊き出しに活用できる体制を整えた。

ア 炊き出し器材の整備

藤枝市藤枝	800サイズ	1セット
掛川市	600サイズ	1セット
小山町	600サイズ	1セット



▲炊き出し器材

イ 炊き出しリーダー養成講習会

炊き出し器材の取り扱いや、包装食袋を使った炊き出しの指導方法に加え、被災者との接し方について学ぶ炊き出しリーダー養成講習会を2回開催した。

開催日	会場	参加者数
3月1日（水）・2日（木）	静岡県支部	32

（５）奉仕団の組織と活動

ア 赤十字奉仕団静岡県支部委員会

赤十字奉仕団静岡県支部委員会は、地域赤十字奉仕団委員会、青年赤十字奉仕団及び各特殊赤十字奉仕団の委員長、副委員長等で構成されており、静岡県支部管内の各赤十字奉仕団の運営に関し情報交換を行うとともに、活動の推進に向けた協議及び連絡調整を行っている。

本年度は、新型コロナウイルスの感染状況から、資料送付により各奉仕団間の情報共有を図った。

◆赤十字奉仕団静岡県支部委員会役員

委員長 小木 絹代（静岡県地域赤十字奉仕団委員会委員長）
副委員長 加藤 君子（静岡県地域赤十字奉仕団委員会副委員長）
// 松永 博（静岡県無線赤十字奉仕団委員長）
// 菅沼 博明（静岡県赤十字水上安全奉仕団委員長）

イ 地域赤十字奉仕団

（ア） 地域赤十字奉仕団委員会

地域赤十字奉仕団委員会は、各地域赤十字奉仕団の委員長で構成されており、静岡県支部管内の地域赤十字奉仕団の運営に関し情報交換を行うとともに、活動の推進に向けた協議及び連絡調整を行っている。

◆地域赤十字奉仕団委員会役員（ ）内は所属赤十字奉仕団

委員長 小木 絹代（浜松市浜北） 常任委員 菅沼 厚子（沼津市）
副委員長 加藤 君子（浜松市天竜） // 根本 年代（裾野市）
// 泉明寺 葉子（函南町） // 菊川 厚代（藤枝市藤枝）
// 八木 公代（牧之原市） // 大須賀 直子（藤枝市岡部）
// 平賀 むつみ（浜松市佐久間）
// 栗原 光子（袋井市）

＜委員会等の実施状況＞

開催日	活動内容	実施方法	出席者/人数
4月26日	静岡県地域赤十字奉仕団委員会・役員会	参集	38
5月26日	赤十字奉仕団静岡県支部委員会	参集	21
5月30日 ～31日	赤十字奉仕団中央委員会	ハイブリッド	県委員長
9月13日	第3ブロック赤十字奉仕団委員長並びに 担当者会議	WEB	県委員長
9月28日 ～29日	地域赤十字奉仕団活性化委員会視察研修	訪問・交流	9
10月13日	地域赤十字奉仕団活性化委員会	参集	10
10月13日	静岡県地域赤十字奉仕団委員会	参集	38
12月 2日	赤十字奉仕団中央委員会常任委員会	参集	県委員長
2月 7日	地域赤十字奉仕団活性化委員会	参集	10

（イ）各地区分区の赤十字奉仕団 【23市8町に計40団 団員 5,085人】

地域赤十字奉仕団は、地区分区を活動範囲として地域に根ざした奉仕活動を実践するために結成されている。

本年度は、新型コロナウイルスの感染対策に留意しながら、各市区町において奉仕活動を展開した。

ウ 静岡県青年赤十字奉仕団 【団員 16人】

青年赤十字奉仕団は、将来の赤十字を担う青年や学生がボランティア活動を通して赤十字思想を理解し、奉仕の心を育成することを目的としている。

主に青少年赤十字活動を経験した青年や学生で構成されており、イベントへの協力や青少年赤十字活動への支援、他団体との連携を図っている。

本年度も、新型コロナウイルスに留意しながら、実開催やハイブリッド形式により定例会を開催するとともに、SNSを活用した活動紹介や団員募集等の広報活動、全国の青年奉仕団との情報交換に取り組み、組織の充実強化に努めた。

◆青年赤十字奉仕団役員

委員長 田中 優丞
副委員長 中島 正崇



▲救急法競技会に参加した様子

<本年度の主な活動内容>

開催日	活動内容	実施方法/ 会場	参加者数
6月25日 ～26日	第3ブロック青年赤十字奉仕団代表者及び 支部担当者会議	長野県支部	2
10月30日	第10回赤十字救急法競技会	グランシップ	5
11月13日	青少年赤十字創設100周年記念静岡県大会	あざれあ	3
12月3日	ユース委員会によるSNS活用調査	Web	1

エ 特殊赤十字奉仕団

(ア) 静岡県無線赤十字奉仕団 [団員 154人]

静岡県無線赤十字奉仕団は、県内在住のアマチュア無線従事者で組織されている。

静岡県支部社屋に統制局、浜松赤十字病院、伊豆赤十字病院、裾野赤十字病院、下田市に副統制局を設けて、日本赤十字社の災害救護業務を円滑に遂行できるよう、無線通信技術を活かした活動を展開している。

団員相互の通信によって定期的な電波伝播状況調査を毎月2回行っているほか、本年度は各都道府県の奉仕団が行う無線通信訓練に計14回参加した。



▲無線通信訓練

◆静岡県無線赤十字奉仕団役員

委員長 松永 博

副委員長 森下 剛嗣 古田 多津彦 山本 忠男

(イ) 静岡県赤十字安全奉仕団 [団員 296人]

静岡県赤十字安全奉仕団は、赤十字講習指導員や赤十字救急法救急員等で組織されている。

大道芸ワールドカップ in 静岡での救護活動や、赤十字救急法競技会の運営協力などの活動のほか、赤十字講習で使用する講習器材の整備や、受付等運営の協力を行った。



▲講習器材整備での活動

◆静岡県赤十字安全奉仕団役員

委員長 大滝 峰雄

副委員長 藤本 孝雄 細見 誠

飯田 恵司

(ウ) 静岡県赤十字水上安全奉仕団 [団員 70人]

静岡県赤十字水上安全奉仕団は、赤十字水上安全法指導員や赤十字水上安全法救助員で組織されている。

本年度も、水の事故から命を守る赤十字水上安全法講習を指導したほか、県内の水泳競技大会や、海、河川での監視活動を行った。

◆静岡県赤十字水上安全奉仕団役員

委員長 菅沼 博明
副委員長 平山 和也 杉山 るみ子
高岡 克典



▲水泳競技大会での監視活動

(エ) 静岡県点訳赤十字奉仕団 [団員 12人]

静岡県点訳赤十字奉仕団は、点字講習会を受講した主婦、会社員などで組織されている。

本年度は、日常生活になくてはならないカレンダー、土日・休日当番医表、静岡県支部の広報紙「赤十字しずおか」をはじめ、新たに静岡赤十字病院の広報誌「日赤 News」を点訳し、視覚障がいのある人の生活を支援する活動を行った。

このほか、一般の方を対象に点字講習会を開催し、点字の普及にも努めた。



▲点字版「日赤 News」

◆静岡県点訳赤十字奉仕団

委員長 佐藤 和子
副委員長 松永 和子

(オ) 静岡県赤十字看護奉仕団 [団員 25人]

静岡県赤十字看護奉仕団は「VS（ボランティアサービス）たんぽぽ」の愛称で、県内在住の看護師がその知識と技術を活かして主に地域の保健福祉に関する分野で活動している。

本年度は、高齢者や障がい者を中心とした行事での臨時救護や大道芸ワールドカップでの救護協力を行った。

◆静岡県赤十字看護奉仕団役員

委員長 名坂 笑子
副委員長 山下 トナエ



▲大道芸ワールドカップでの救護協力

(カ) 静岡県柔道整復師赤十字奉仕団 [団員 345 人]

静岡県柔道整復師赤十字奉仕団は、柔道整復師がその知識と技術を活かしたボランティア活動を通じて、明るく住み良い社会を築き上げていくことを目的として活動している。

本年度は、団員を対象に、救急法を取り入れた研修を実施し、知識と技術の向上に努めた。



▲AED 訓練をする団員

◆静岡県柔道整復師赤十字奉仕団役員

委員長 小澤 喜一
副委員長 大川 宏和
松本 洋昭
安間 台

(キ) 静岡県青少年赤十字賛助奉仕団 [団員 70 人]

静岡県青少年赤十字賛助奉仕団は、幼稚園・保育所、小・中学校、高等学校などで青少年赤十字の指導に当たっていた教育経験者で組織されている。

JRC100 周年を迎えた本年度も青少年赤十字の普及発展を支援し、青少年の健全育成に寄与するために、青少年赤十字未加盟校への加盟促進や 100 文字作文コンクールの審査等の支援活動を行った。

さらに第 3 ブロック連絡協議会を熱海にて開催し、他県団員との交流を通して知見を深めた。



▲新規加盟登録式

◆静岡県青少年赤十字賛助奉仕団役員

委員長 池谷 久治
副委員長 巻口 薫 (東部) 早川 和幸 (中部)
無州 芳裕 (西部) 永井 正 (高校部)

(ク) 静岡県芸能赤十字奉仕団 [団員 22 人]

静岡県芸能赤十字奉仕団は、大道芸パフォーマンスを行う奉仕者組織として結成された。

本年度は、新型コロナウイルスの影響から、献血キャンペーンなどでの活動機会はなかった。



▲クラウンパフォーマンスを行う団員

◆静岡県芸能赤十字奉仕団役員

委員長 藤田 秋夫
副委員長 並木 広和

5 青少年赤十字 (Junior Red Cross) 活動

青少年赤十字は、児童や生徒が「やさしさと思いやりのこころを育むこと」を目的に「気づき・考え・実行する」という態度目標と「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」の3つの実践目標を掲げ取り組んでいる。

本年度は、青少年赤十字創設 100 周年を迎え、「未来のあなたへ、やさしさを。」をスローガンとした記念事業をはじめ、青少年赤十字メンバーが自ら考え、活動を発展させる契機となるよう取り組んだ。

(1) 加盟校の状況

本年度末の加盟校（園）数は、以下のとおりである。

校種別	区分	令和 4 度末		令和 3 度末	
		加盟校 (園・校)	メンバー数 (人)	加盟校 (園・校)	メンバー数 (人)
	幼・保・こども園	25	1,875	23	1,496
	小 学 校	163	49,777	154	43,162
	中 学 校	93	26,623	89	22,416
	高 等 学 校	99	37,250	103	11,563
	特 別 支 援 学 校	5	261	5	247
	計	385	115,786	374	78,884

◆本年度の学校訪問数 243 校・新規加盟校（園）数 21 校（園）

(2) 青少年赤十字活動の状況

ア 青少年赤十字創設 100 周年記念事業

(ア) 青少年赤十字創設 100 周年記念静岡県大会の開催

「未来のあなたへ、やさしさを。～つなぐ・つづける・つくる～」をスローガンに、これからの社会を担う一人ひとりが、時代の変化に応じて、自ら考え行動し、明るい未来をつくりあげていくことを目的として、青少年赤十字創設 100 周年記念静岡県大会を開催した。

- ◆開催日 令和4年 11 月 13 日（日） 13：15～15：00
- ◆会 場 静岡県男女共同参画センター「あざれあ」大ホール
- ◆参加者 青少年赤十字メンバー・指導者等 約 130 人
- ◆内 容 第1部 式典
 - ・継続加盟表彰
 - ・100 文字作文コンクール表彰

- ・有志からの小中高メンバーへのメッセージ

「これからの青少年赤十字活動に向けて」

第2部 記念発表

- ・「わが校の青少年赤十字活動の歴史を探究する」

静岡県立藤枝東高等学校 JRC 部

- ・「赤十字の国際活動」

本社青少年・ボランティア課長



▲創設 100 周年特別表彰贈呈



▲小中高メンバーへのメッセージ披露

(イ) 青少年赤十字の意義の再確認ポスターの作製

創設 100 周年を契機に、「気づき、考え、実行する」という態度目標をあらためてメンバーが認識し、実践活動に取り組むことができるよう、ポスターを作製し加盟校に配付した。

(ウ) 「国際理解・親善」実践活動の活性化に向けた募金箱の作製

国際理解・親善の実践活動の一つである募金活動への取組みを推進するため、募金箱を作製し、加盟校（園）に配付した。

イ 青少年赤十字の充実・強化

(ア) 高校生メンバー研修会

高校生メンバーの気づき、考え、実行する力を育み、他校との交流を図ること、自校でのよりよい活動を考える機会とすることを目的に高校生メンバー研修会を実施した。

青少年赤十字の意義を再確認するオリエンテーションを行ったうえで活動に取り組み、研修のまとめとして「わたしたちにできること」というテーマで各校が発表した。

◆参加校・参加者数 10校 171人

静岡県立稲取高等学校 静岡県立三島南高等学校 静岡県立沼津商業高等学校

富士市立高等学校 清水国際高等学校 静岡県立清流館高等学校

相川学園静清高等学校 静岡県立藤枝東高等学校

静岡県立島田商業高等学校 静岡県立掛川東高等学校

◆開催内容

開催日	内 容	実施方法
6月19日	・JRC オリエンテーション ・「ウミガメと環境」について 〈講師〉カメハメハ王国 執事 山本明男 様	Web
9月11日	・海岸清掃	さがらサンビーチ 千本浜海岸
10月16日	・減災セミナー	Web
11月	・NHK海外たすけあい街頭募金事前学習（ポスター作製など）	各校において実施
12月	・NHK海外たすけあい街頭募金活動	各校において実施
2月5日	・各校の発表「わたしたちにできること」 ・意見交換	Web

（イ）青少年赤十字スタディー・プログラム（本社主催）

- ◆開催日 令和5年3月21日（火）・25日（土）
- ◆参加者 静岡県立三島南高等学校 2人
- ◆内容 体験学習を通じて、参加者自身が潜在的に持っている差別や偏見に気づき、「誰一人取り残さない 多様性を尊重した共生社会」について考えるプログラム

ウ 指導者の養成・強化

赤十字と青少年赤十字活動への理解を深め、各加盟校で「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」に関する実践活動に取り組むことができるよう指導者育成のための研修会を開催した。

開催日	研修会	内 容	参加者数（人）
6月10日	指導担当者研修会	「赤十字とJRC活動」 「JRC活動とSDGsについて」	10
6月16日	校長・副校長・教頭 研修会	「防災教育の最前線 ―防災教育の 実践と福祉防災の現状―」	24

エ 青少年赤十字活動の普及・広報

（ア）青少年赤十字 100 文字作文コンクール

- 応募数 1,597 点 ①100 文字作文部門 1,455 点
 ②ハートラちゃんのお絵かき部門 67 点
 ③青少年赤十字創設 100 周年記念作文部門 75 点

（イ）青少年赤十字防災教育

賛助奉仕団、地域奉仕団、防災ボランティア、地区分区と連携し、炊き出し体験、防災講話を実施した。

◆参加校・参加者数 4校 597人

静岡市立清水小島中学校 静岡市立長田南中学校 吉田町立吉田中学校
掛川市立大浜中学校



▲奉仕団員の指導を受けて包装食を作製



▲防災ボランティアによる防災講話

オ 加盟校（園）活動支援事業

加盟校（園）における実践目標「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」に関する活動を実施するための経費を助成した。

実践活動奨励金	202校（園）	（各校 一律1万円）
探求活動助成金	12校	（各校 上限5万円）

カ 海外救援活動への協力

海外の紛争や災害、疾病などに苦しむ人々を支援する青少年赤十字海外支援事業（ネパール・バヌアツの支援）に役立てる「青少年赤十字活動資金」の募金活動を加盟校に促した。

実施内容	実施校（園）
青少年赤十字活動資金募集	若竹幼稚園、静岡市立長田東小学校、 若竹こどもの森

（3）青少年赤十字指導者協議会

青少年赤十字の普及と加盟校同士の連携を目的として、加盟校の校長や指導者などで構成する「静岡県青少年赤十字指導者協議会」が組織されている。

若手指導者の確保、青少年赤十字への理解・加盟促進についての協議などが行われた。

開催日	事業	内容	参加者数（人）
4月21日	役員会	評議員会について、役員関連事業の確認	14
4月21日	評議員会	事業計画、事業報告審議	31
6月17日	第3ブロック青少年赤十字指導者協議会長及び担当者研究会	協議事項（若手指導者の確保、青少年赤十字への理解・加盟促進について等）	3

開催日	事業	内 容	参加者数（人）
6月29日	青少年赤十字全国指導者協議会総会・研修会	役員改選、グループディスカッション （「人道の心を道德教育に取り入れるには」等）	1
2月9日	役員会	事業中間報告、 次年度の事業計画協議	12



6 国際活動

世界各地では、今もなお民族の対立や政治経済の混乱などに起因する様々な紛争、風水害、干ばつ、地震などの自然災害、新型コロナウイルスに代表される感染症が多発し、その犠牲者や被害者は依然として増加している傾向にある。

紛争や災害時の人道的活動は、赤十字活動の基本的使命であり、日本赤十字社は国際赤十字の一員として、各国の赤十字社・赤新月社、赤十字国際委員会、国際赤十字・赤新月社連盟と連携して「国際救援」と「開発協力」の活動を展開している。

静岡県支部では、第3ブロック支部（東海・北陸・長野の8県）と共同して国際活動に参加するとともに、NHK 海外たすけあいなど海外救援金を募集した。

（1）第3ブロック支部共同事業

日本赤十字社は、様々な紛争や自然災害などによって被害を受けた外国の人々のために救援活動に従事する国際救援要員を派遣し、被害国の赤十字社の組織運営強化に結びつく援助を行っている。

静岡県支部は、第3ブロック支部共同事業として、次の事業に参加した。

＜第3ブロック支部共同事業＞

事業名（対象地域）	事業費総額 (内、静岡県支部の支出額)	事業内容
東アフリカ地域保健強化事業 (ブルンジ、タンザニア、ウガンダ)	6,000 千円 (1,020 千円)	地域住民の保健・防災に関する知識の向上を目的として、フォーカスグループディスカッションやラジオ放送、モバイルシネマを通じた啓発活動を実施
中東人道危機救援事業（レバノン）	8,000 千円 (1,360 千円)	紛争や情勢不安の影響を強く受けるシリア難民や地元コミュニティの生活環境改善を目的として、水・衛生用品の配布、設備の整備、学校での啓発活動を実施
アジア・大洋州給水・衛生災害対応 キット整備事業（アジア・大洋州）	6,000 千円 (1,020 千円)	アジア・大洋州地域の災害多発国への給水・衛生災害対応キットの整備と資機材の見直し、給水・衛生に関する研修や地域の人々への衛生教育を実施



▲研修を受ける支部職員とボランティア（ブルンジ）



▲緊急給水衛生研修で浄水機器を設置する参加者（マレーシア）

(2) NHK海外たすけあい等海外救援金の募集

ア NHK海外たすけあい

日本赤十字社は昭和58年からNHKと共催し、アジア、アフリカ地域を中心とする開発途上国の災害救援、難民支援、保健衛生の向上などを目的としたNHK海外たすけあいを実施している。

本年度は、NHKの放送やSNSなどを通じて呼びかけたほか、新型コロナウイルス感染対策を行ったうえで街頭募金を実施した。



▲NHK 静岡放送局での受付

	第40回(令和4年)		第39回(令和3年)		第38回(令和2年)	
本県の概要	件数	金額(円)	件数	金額(円)	件数	金額(円)
	1,211	12,789,806	1,357	16,986,911	1,365	18,145,531
全体実績額	7億8,708万円		7億2,088万円		7億5,038万円	
全体目標額	8億5,000万円		8億5,000万円		8億5,000万円	

イ 海外救援金

海外で発生した武力紛争、自然災害や病気などにより困難な状況にある人々を支援するために海外救援金を募集した。

ウクライナ人道危機や、令和5年2月のトルコ・シリア地震に対して、多くの救援金が寄せられた。

救援金名	受付件数	受付金額(円)
中東人道危機救援金	8	10,636
バングラデシュ南部避難民救援金	9	15,782
アフガニスタン人道危機救援金	14	71,130
ウクライナ人道危機救援金	859	26,868,808
2022年アフガニスタン地震救援金	12	17,890
2022年パキスタン洪水救援金	12	77,349
2023年トルコ・シリア地震救援金	326	11,256,693

(3) 国際救援・開発協力要員の確保

日本赤十字社は、海外の災害救援や保健衛生向上のために高い語学力と国際活動への参加意識を持ち、長期にわたり国際活動に従事できる人材（国際救援・開発協力要員）を派遣している。静岡県支部で確保している要員は、3人である。

（４）安否調査の実施

安否調査は、赤十字の国際活動のひとつでありジュネーブ条約などに基づいて武力紛争、自然災害、その他の事情により行方がわからなくなった家族等の調査を各国赤十字・赤新月社間で行うものである。

本年度は、静岡県支部への調査依頼はなかった。



7 社業振興事業

日本赤十字社の活動は、会員等の支援者が拠出する会費と一般からの寄付金によって運営されている。

本年度も、自治会や町内会等を通じた地域に密着した方法で活動資金募集を展開したほか、法人会員の増強などに努め、490 百万円余と目標額に近い実績となった。

(1) 赤十字運動

5 月 1 日が日本赤十字社創立記念日、5 月 8 日が赤十字の創始者アンリー・デュナン生誕を記念した世界赤十字デーであることから 5 月を赤十字運動月間としている。

より多くの県民に赤十字運動へ参加していただくため、地区区分関係者をはじめ、協賛委員会、奉仕団、有功会などの協力を得て県下一斉に会員等支援者の増強に努めた。

また、赤十字活動資金にご協力くださった方々に表彰基準によって、有功章等を贈呈した。

＜本年度の有功章及び感謝状受章者数（社資功労）＞

受章区分 地区区分名	金色有功章		銀色有功章		社長感謝状	
	個人	法人	個人	法人	個人	法人
三 島 市	0	0	0	0	3	1
沼 津 市	0	1	1	0	0	0
裾 野 市	1	0	0	0	0	0
富 土 市	0	1	0	4	0	0
静 岡 市 清 水	0	0	0	0	1	0
静 岡 市 葵・駿 河	0	1	0	0	0	1
浜 松 市 中 区	0	0	0	0	1	0
浜 松 市 南 区	1	0	0	0	0	0
浜 松 市 天 竜 区	0	0	0	0	1	0
長 泉 町	0	1	0	0	0	0
小 山 町	1	0	3	0	0	0
支 部 扱 い	8	4	3	2	4	2
支部扱い（施設）	0	0	0	0	0	1
計	11	8	7	6	10	5

(2) 法人会員の増強

活動資金の増強を図るためには、法人の協力を求めることが不可欠であるため、主に県下の法人を対象に赤十字の使命を伝え、活動資金の使途を明確にしたダイレクトメールを2回送付した。この結果、約31百万円の協力を得ることができた。

(3) 活動資金募集の拡充（遺贈、相続財産による寄付の推進）

ア 遺贈や相続財産の寄付を案内するパンフレットを、相続相談などの日頃の業務に使っていただくよう東海税理士会を通じて県内の同会所属会員に配付した。また、県弁護士会等を訪問し、会員への配付及び周知を依頼した。さらに、県内公証役場にも送付し活用を依頼した。

イ 静岡新聞への広告掲載やWEBサイトでPRを行うとともに、赤十字と「遺贈寄付に関する協定」を締結している信託銀行や都市銀行を訪問し、寄付勧奨に努めた。



▲スルガ銀行株式会社との協定締結式

ウ 身近な金融機関である県内地方銀行との協定締結に努めた結果、令和5年1月26日付で、スルガ銀行株式会社と協定を締結した。

エ 赤十字救急法等講習受講者への認定証の交付に際し、リーフレットや振込用紙を配付して活動資金への協力を働きかけた。

(4) 赤十字チャリティーボックスの設置

県内の地域赤十字奉仕団とJA 静岡中央会等の協力により、JA 関係機関、県内の商店、スーパーマーケット、ホテル、公民館など約1,000カ所に赤十字チャリティーボックスを設置しており、本年度は約190万円の収納実績を得た。

(5) 令和4年度活動資金（社資収入）収納額

本年度の活動資金収納額は、490,878,686円で、対予算99.2%となった。

地区区分名	目標額(円)	活動資金収納額(円)	達成率(%)
下田市	2,962,000	3,034,217	102.4
伊東市	7,793,000	7,363,084	94.5
熱海市	3,877,000	3,108,981	80.2
伊豆市	4,858,000	5,384,850	110.8
伊豆の国市	5,884,000	6,114,550	103.9
三島市	12,987,000	13,484,015	103.8
沼津市	23,938,000	24,533,993	102.5

地区区分名	目標額(円)	活動資金収納額(円)	達成率(%)
裾野市	6,186,000	7,516,000	121.5
御殿場市	9,665,000	8,386,431	86.8
富士宮市	16,365,000	18,962,600	115.9
富士市	30,032,000	30,428,700	101.3
静岡市	74,700,000	70,725,803	94.7
(静岡市清水)	(29,179,000)	(30,566,055)	104.8
(静岡市葵・駿河)	(45,521,000)	(40,159,748)	88.2
焼津市	20,484,000	22,785,552	111.2
藤枝市	16,686,000	18,256,146	109.4
島田市	11,583,000	12,341,245	106.5
牧之原市	6,548,000	5,851,050	89.4
御前崎市	5,175,000	4,952,300	95.7
掛川市	14,882,000	16,991,228	114.2
菊川市	5,291,000	6,606,000	124.9
袋井市	10,054,000	12,269,100	122.0
磐田市	19,342,000	18,945,695	98.0
浜松市	96,335,000	97,016,336	100.7
(浜松市中区)	—	(24,939,160)	—
(浜松市東区)	—	(15,427,405)	—
(浜松市西区)	—	(13,094,138)	—
(浜松市南区)	—	(11,870,231)	—
(浜松市北区)	—	(10,802,383)	—
(浜松市浜北区)	—	(15,699,386)	—
(浜松市天竜区)	—	(5,183,633)	—
湖西市	7,327,000	8,689,354	118.6
東伊豆町	1,529,000	1,467,000	95.9
河津町	1,014,000	1,074,500	106.0
南伊豆町	1,103,000	1,112,800	100.9
松崎町	1,425,000	1,238,500	86.9
西伊豆町	1,397,000	1,410,500	101.0
函南町	4,175,000	3,973,700	95.2
清水町	4,735,000	4,791,100	101.2
長泉町	5,947,000	6,907,581	116.2
小山町	3,156,000	3,407,500	108.0
吉田町	3,693,000	3,898,844	105.6
川根本町	1,197,000	1,227,000	102.5
森町	2,675,000	2,845,500	106.4
地区区分計	445,000,000	457,101,755	102.7
支部扱い	50,000,000	33,776,931	67.6
合 計	(予算額) 495,000,000	490,878,686	99.2

(6) 全国赤十字大会への参加

令和4年全国赤十字大会は、5月19日に日本赤十字社名誉総裁皇后陛下、名誉副総裁各妃殿下ご臨席のもと、東京の明治神宮会館で開催された。

新型コロナウイルスの影響で3年ぶりの開催となった今大会は、感染リスクを抑制することを優先し、開催規模を例年の約1,600人規模から約500人程度に縮小し実施された。

各支部の参会者数は、全支部一律で6人までと制限されるなか、本県からは、有功章等受章者を代表して5人が出席し、金色有功章を受章した1人が名誉総裁皇后陛下より表彰伝達を受けた。



▲静岡県支部の参会者

(7) 日本赤十字社静岡県支部協賛委員会

自治会、町内会あるいは奉仕団の方々には、活動資金の募集等様々な協力をいただいている。市町の自治会、町内会の役員で構成されている静岡県支部協賛委員会が4月に開催され、令和4年度の運営方針が決定された。

◆日本赤十字社静岡県支部協賛委員会役員

会長 榊原 昭雄 (静岡県自治会連合会会長)
副会長 廣野 篤男 (静岡県自治会連合会副会長)
山下 聖秋 (静岡県自治会連合会会計)

開催日	内 容
4月20日	〈令和4年度運営方針〉赤十字事業の周知・会員等支援者増強の推進

(8) 日本赤十字社静岡県有功会

静岡県有功会は、赤十字事業の支援等を目的に有功章受章者で組織されている。赤十字の人道・博愛精神の普及や青少年赤十字の支援などの活動を続けており、令和5年3月末現在の会員数は395人となっている。

本年度は、支部事業の支援として、赤十字救急法競技会の有功会長賞、青少年赤十字100文字作文コンクールの参加賞を提供した。

3月に群馬県への会員研修を実施し、前橋赤十字病院等を視察した。



▲静岡市葵区で開催された有功会総会

◆日本赤十字社静岡県有功会役員

会 長 片川 昭壽 （島田市支会会長）
副会長 池谷 滋雄 （富士宮市支会会長）
菅沼 成欣 （湖西市支会会長）
山本 良一 （三島市支会会長）

（９）赤十字思想の普及（広報活動）

赤十字の活動を推進するためには、県民の赤十字に対する理解と支援が不可欠であり、事業内容や活動資金の使途をわかりやすく説明することが求められているため「活動報告とお礼」に留意した広報を展開している。

本年度は、「With コロナでの赤十字活動」や「創設 100 周年を迎えた日本の青少年赤十字活動」などを、広報紙や Web ページ、YouTube 等において発信した。

ア 活動資金募集チラシ

災害時だけでなく、いつどこで起こるか分からない災害に備える活動を取り上げ、赤十字の活動を持続可能にするための支援を訴求したチラシ約 82 万部を作製し、自治会・町内会を通じて各世帯へ回覧または配布した。



▲活動資金募集チラシ

イ 静岡県支部広報紙「赤十字しずおか」

赤十字活動をわかりやすく地域住民に伝えることを目的に、年 2 回（8 月、1 月）発行し、自治会や図書館、行政窓口等に配布（発行部数計約 10 万部）した。

- テーマ ◆感染対策を徹底した各事業の実施（8 月）
◆日本の青少年赤十字創設 100 周年（1 月）



▲支部広報紙
「赤十字しずおか」

ウ 赤十字運動用ステッカー

商業組合静岡県タクシー協会及び静岡県個人タクシー協会の協力を得て、ステッカー約 4,400 枚を県内のタクシーに貼付した。



▲赤十字運動用ステッカー

エ 赤十字 NEWS

本社発行の「赤十字NEWS」に毎月記事を投稿するとともに、関係者に配付（約2万9千部）した。

オ Web サイト

活動資金募集への理解や協力を促すため、各種講習、災害救護活動、新型コロナウイルス感染症に対する活動紹介等を行った。本年度は、84,438 回のページビュー数があった。



▲日本赤十字社静岡県支部 Web サイトトップページ

カ YouTube

救急法等の知識と技術を向上させることを目的に3年ぶりに開催した赤十字救急法競技会の競技説明動画や、講習指導員の研修会動画など4本を公開した。

キ SNS (Twitter)

若年層への情報伝達の充実を図り、支部事業への理解（共感）度・認知度を向上させることを目的に、令和5年1月に静岡県支部の Twitter を開設した。

ボランティア・JRC の活動や赤十字講習にかかる内容などを随時発信した。



▲日本赤十字社静岡県支部 Twitter

8 評議員会

静岡県支部では、日本赤十字社定款第71条に基づき、事業報告（収支決算を含む）及び事業計画（収支予算を含む）を評議員会に諮りながら各事業を推進している。

（１）前期評議員会

6月9日、静岡県産業経済会館において開催。次の議案が原案どおり承認された。

第1号議案：令和3年度事業報告及び歳入歳出決算について

第2号議案：日本赤十字社代議員の選出について

また、次の事項について報告を行った。

伊豆赤十字病院 地域医療連携推進法人への参加について



▲議案説明の様子

（２）後期評議員会

2月7日、静岡県産業経済会館において開催。次の議案が原案どおり承認された。

第1号議案：令和5年度事業計画について

第2号議案：令和5年度歳入歳出予算について

また、次の事項について報告を行った。

- ・ウクライナ人道危機に対する日本赤十字社の対応について
- ・広域的看護師派遣 ～沖縄県の小児科・内科病棟における看護支援活動報告

9 一般会計決算概要

(1) 歳 入

(単位：円)

科目	予 算 現 額			決算額	予算現額に 比し増減
	当初予算額	補正予算額	計		
社資収入	495,000,000	13,224,000	508,224,000	504,102,624	△4,121,376
一般社資収入	466,000,000	13,224,000	479,224,000	482,514,115	3,290,115
法人社資収入	29,000,000	0	29,000,000	21,588,509	△7,411,491
委託金等収入	0	0	0	0	0
補助金及び交付金収入	3,520,000	0	3,520,000	3,210,161	△309,839
本社交付金収入	3,520,000	0	3,520,000	3,210,161	△309,839
災害義援金預り金収入	0	123,430,000	123,430,000	123,429,716	△284
繰入金収入	0	13,224,000	13,224,000	13,223,938	△62
資金繰入金収入	0	13,224,000	13,224,000	13,223,938	△62
資産収入	0	0	0	0	0
雑収入	6,372,000	0	6,372,000	6,303,059	△68,941
利子収入	2,000	0	2,000	1,174	△826
負担金収入	5,710,000	0	5,710,000	3,803,901	△1,906,099
雑収入	660,000	0	660,000	2,497,984	1,837,984
前年度繰越金	62,576,000	0	62,576,000	70,373,662	7,797,662
歳入合計	567,468,000	149,878,000	717,346,000	720,643,160	3,297,160

(2) 歳 出

(単位：円)

科目	予 算 現 額				決算額	不用額
	当初予算額	補正予算額	流用増減額	計		
災害救護事業費	59,616,000	123,430,000	0	183,046,000	168,642,772	14,403,228
災害救護指導事業費	18,278,000	0	0	18,278,000	11,259,300	7,018,700
災害救護装備費	28,634,000	0	0	28,634,000	21,577,842	7,056,158
非常災害救援物資整備費	1,200,000	0	0	1,200,000	1,095,600	104,400
災害義援金送付金	0	123,430,000	0	123,430,000	123,429,716	284
救護看護師指導養成費	11,504,000	0	0	11,504,000	11,280,314	223,686
社会活動費	114,314,000	△15,000,000	0	99,314,000	83,546,687	15,767,313
救急法等普及費	66,976,000	△10,000,000	0	56,976,000	49,523,983	7,452,017
奉仕団活動費	17,676,000	△2,000,000	0	15,676,000	12,050,387	3,625,613
青少年赤十字活動費	20,855,000	△3,000,000	0	17,855,000	13,829,147	4,025,853
医療事業費	8,660,000	0	0	8,660,000	8,132,810	527,190
血液事業費	147,000	0	0	147,000	10,360	136,640
国際活動費	3,659,000	13,224,000	0	16,883,000	16,682,659	200,341
指定事業地方振興費	22,000,000	13,224,000	0	35,224,000	35,221,657	2,343
地区区分交付金支出	76,434,000	0	444,000	76,878,000	76,876,287	1,713
社業振興費	52,198,000	0	0	52,198,000	44,738,529	7,459,471
社業振興費	22,107,000	0	0	22,107,000	16,829,445	5,277,555
広報活動費	30,091,000	0	0	30,091,000	27,909,084	2,181,916
基盤整備交付金・補助金支出	8,600,000	0	1,500,000	10,100,000	10,100,000	0
積立金支出	51,545,000	15,000,000	0	66,545,000	62,113,350	4,431,650
資金積立金支出	40,000,000	15,000,000	0	55,000,000	51,000,000	4,000,000
退職給与資金特別会計積立金支出	11,545,000	0	0	11,545,000	11,113,350	431,650
総務管理費	81,243,000	0	0	81,243,000	75,143,397	6,099,603
評議員会等諸費	514,000	0	0	514,000	501,215	12,785
総務管理費	80,199,000	0	0	80,199,000	74,123,382	6,075,618
監査費	530,000	0	0	530,000	518,800	11,200
資産取得及び資産管理費	24,559,000	0	0	24,559,000	15,305,889	9,253,111
本社送納金支出	69,300,000	0	0	69,300,000	69,043,472	256,528
予備費	4,000,000	0	△1,944,000	2,056,000	0	2,056,000
歳出合計	567,468,000	149,878,000	0	717,346,000	657,414,699	59,931,301

歳 入 合 計 720,643,160 円
 歳 出 合 計 657,414,699 円
 歳入歳出差引残額 63,228,461 円 (翌年度繰越額)

(3) 資金増減明細表

(単位：円)

資金別		前年度末 現在額	令和 4 年度			令和 4 年度 積立額	令和 4 年度末 現在額
			増	減	差引額 (A)－(B)		
			利子収入 (A)	元本繰出額 (B)			
災害等資金		1, 297, 641, 873	1, 510, 545	0	1, 510, 545	0	1, 299, 152, 418
国際救護活動資金	国際救護活動資金 (社資収入)	42, 492, 073	422	0	422	0	42, 492, 495
	支部国際活動基金 (個人住民税控除適用)	11, 992, 375	118	0	118	0	11, 992, 493
	支部国際活動基金 (個人住民税控除 適用海外救援金)	0	0	13, 223, 938	△13, 223, 938	13, 223, 938	0
施設整備準備資金		1, 043, 303, 168	3, 598, 773	0	3, 598, 773	51, 000, 000	1, 097, 901, 941
特別退職金積立留保金		0	0	0	0	0	0
事業準備積立金		0	0	0	0	0	0
合 計		2, 395, 429, 489	5, 109, 858	13, 223, 938	△8, 114, 080	64, 223, 938	2, 451, 539, 347

Ⅱ 医療事業・医療施設特別会計決算概要

県下5つの赤十字病院において、平時の一般診療に加えて災害時には救護活動にあたるなど赤十字の使命を果たすべく活動している。それぞれの病院が特色を生かして救急医療や地域の医療ニーズに取り組むほか、高齢社会へ対応する療養病床や在宅での療養、介護を支援するための訪問看護ステーションを設けるなど、安定的な医療の提供と福祉の増進に努めている。

昨年度に引き続き、各病院において新型コロナウイルスへの感染対策を徹底しながら病院運営を行い、地域医療を担う公的病院としての役割を果たした。

1 静岡赤十字病院

(1) 診療状況の概要

病床数		職員数				入院患者数			外来患者数		
許可 病床数	実働 病床数	医師	看護師	その他	計	延数	1日 平均	1日平均 前年比	延数	1日 平均	1日平均 前年比
床	床	人	人	人	人	人	人	%	人	人	%
465	465	142.6	500.9	356.9	1,000.4	138,772	380.2	94.9	194,710	801.3	98.0

(2) 訪問看護ステーションの状況

名称	利用者数	訪問看護延回数	従事者数	サービス内容
しずおか日赤 訪問看護ステーション	190人	6,256回	8.4人	訪問看護、訪問リハビリ

(3) 運営状況

本年度は、静岡赤十字病院第5次中期経営計画の初年度であり、当該計画には、「救急医療の充実」「地域連携の推進」「災害医療体制の充実」「教育・研修の充実」という運営の4本柱を設定した。これらを軸に質の高い医療サービスを提供できるよう、医療提供体制の整備を図り、持続的な成長に向けて、以下の事項を推進した。

ア 救急医療の充実

救命救急センター取扱実患者数は10,647人（令和3年10,646人）であり、うち入院が3,754人（令和3年度3,897人）、であった。本年度も感染症専用病棟を設けたため、救急車の搬入に制限を設けた時期があったものの救急車実搬入台数は5,203台（令和3年度4,567台）と大幅に増加し、静岡市消防管内の救急車搬入のうち、当院に搬入された割合は、3番目に多く、約13%の受入れを担い、地域の救急医療の要としての機能を果たした。

イ 診療機能の整備（医師確保）

医師確保のため、積極的な大学医局訪問等を継続した結果、消化器内科、呼吸器内科、眼科が増員となり、体制が強化された。なお、当院の強みである整形外科は、手術件数が県内でトップクラスであることから、県内の広域から多くの患者が来院しており、信頼を得ている。

ウ 看護体制の整備

新型コロナウイルスに対応するため、専用病棟を継続設置した。当該病棟については、従来の固定配置を見直し、参集型、ローテーション制を敷くことで、看護師の疲弊防止に努めた。また、配置の見直しにより、教育的な観点からも感染症に対応できる看護師を増加した。その結果、クラスター等のため看護師が不足し、医療の継続が困難となりつつあった沖縄県や県内赤十字医療施設への看護師派遣を円滑に行うことができた。

エ 地域医療連携の推進

静岡市静岡医師会との病診連携システム・開放型病床運営協議会は、新型コロナウイルスの感染状況を注視しつつ、数年ぶりに対面式での開催とし、活発な意見交換を行った。紹介率は80.6%、逆紹介率は131.4%となり、開業医を始めとして、地域の医療機関の多大な信頼を得ている。また、地域の外来機能の明確化・連携の推進に資するため、新たに創設された「紹介受診重点医療機関※」については、当院の機能を鑑みて、地域医療に貢献するため、その役割を担う意思表示をした。※医療資源を重点的に活用する外来を地域で基幹的に担う医療機関

オ 災害医療体制の充実

当院は、災害拠点病院に指定されており、大規模災害発生時は、広域から多数の傷病者を受け入れる役割を担っている。また、救護班5班を編成し、常時災害現場に派遣できる体制をとっている。本年度は、大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）が開催され、当院においても新型コロナウイルスを鑑みて、机上訓練であったものの多数傷病者の受入れや受援体制の検証等を目的に参加した。その他、災害救護訓練に計12回84名が参加、DMAT隊員養成を含む研修には計8回56名が参加し、体制の充実に努めた。

カ 安心・安全な医療提供体制の強化

年2回実施する全職員対象の医療に係る安全管理と感染管理の研修は、多くの職員の参加を得た。また、医療安全の観点から、インシデントレポートを積極的に収集し、分析を行い、必要に応じて、迅速かつ適切な対策を講じた。

キ 初期臨床研修医教育

新たに全国から医師免許を取得した14名の初期臨床研修医を迎え、計27名となった。当院は、初期臨床研修医の教育機関である臨床研修病院に指定されており、医師として基本的な手技や知識を身につけさせるため、指導医を中心に将来の医療を担う医師の育成に努めた。

ク 医療機器等の整備

磁気共鳴断層撮影装置（MRI）バージョンアップ、注射薬自動払出装置更新、超音波画像診断装置更新等を行い、機能維持に努めた。また、近年大幅に患者が増加し、地域からの信頼を得ている眼科については、ダイオードレーザ検眼鏡を整備するなど、更なる診療機能強化に努めた。

ケ しずおか日赤訪問看護ステーション

総合病院の付帯施設という特色を生かして、産科病棟との連携を強化し、助産師が産後うつや新生児を対象とした訪問による母子支援を継続して行った。また、リンパ浮腫セラピストの資格保持者を中心に終末期患者への対応に注力し、他の施設にない特色を生かし、地域の医療ニーズに積極的に応えた。

(4) 決算概要

収益的収入および支出						(単位:円)
科 目	予算現額			決算額	令和3年度 決算額	
	当初予算額	補正予算額	計			
病院収益	15,760,788,000	△ 350,200,000	15,410,588,000	17,513,015,523	17,302,533,295	
医業収益	15,255,018,000	△ 350,000,000	14,905,018,000	14,892,072,492	15,229,049,030	
医業外収益	448,011,000	0	448,011,000	2,552,186,219	2,009,691,704	
医療社会事業収益	318,000	0	318,000	512,500	336,000	
付帯事業収益	56,009,000	0	56,009,000	66,945,970	62,098,822	
特別利益	1,432,000	△ 200,000	1,232,000	1,298,342	1,357,739	
科 目	予算現額				決算額	令和3年度 決算額
	当初予算額	補正予算額	流用増減	計		
病院費用	15,564,876,000	422,000,000	0	15,986,876,000	15,750,738,249	15,065,360,622
医業費用	15,186,375,000	400,000,000	0	15,586,375,000	15,408,082,999	14,731,056,120
医業外費用	131,144,000	0	0	131,144,000	110,263,698	123,309,210
医療奉仕費用	132,035,000	20,000,000	30,000,000	182,035,000	163,906,532	125,745,137
付帯事業費用	74,141,000	0	0	74,141,000	71,790,204	68,288,598
特別損失	2,698,000	2,000,000	0	4,698,000	3,974,827	4,086,198
法人税等	8,483,000	0	0	8,483,000	△ 7,280,011	12,875,359
予備費	30,000,000	0	△ 30,000,000	0	0	0
収支差引額	195,912,000	△ 772,200,000	0	△ 576,288,000	1,762,277,274	2,237,172,673

資本的収入および支出						(単位:円)
科 目	予算現額				決算額	令和3年度 決算額
	当初予算額	補正予算額	前年度繰越事業費充当額	計		
病院収入	1,154,652,000	0	0	1,154,652,000	940,491,212	1,374,061,629
固定負債	64,000,000	0	0	64,000,000	106,756,976	202,794,597
その他資本収入	1,090,652,000	0	0	1,090,652,000	833,734,236	1,171,267,032
科 目	予算現額				決算額	令和3年度 決算額
	当初予算額	補正予算額	前年度事業繰越額	計		
病院費	1,154,652,000	0	0	1,154,652,000	940,491,212	1,374,061,629
固定資産	597,041,000	0	0	597,041,000	467,601,819	418,315,571
借入金等償還	557,611,000	0	0	557,611,000	472,889,393	955,746,058
収支差引額	0	0	0	0	0	0

利益剰余金					(単位:円)
当期末処分利益(損失)A(a+b)	前期繰越利益(損失) a	当期純利益(損失) b	利益積立金B	利益剰余金合計(A+B)	
1,415,640,903	△ 346,636,371	1,762,277,274	0	1,415,640,903	

2 浜松赤十字病院

(1) 診療状況の概要

病床数		職員数				入院患者数			外来患者数		
許可 病床数	実働 病床数	医師	看護師	その他	計	延数	1日 平均	1日平均 前年比	延数	1日 平均	1日平均 前年比
床	床	人	人	人	人	人	人	%	人	人	%
312	312	64.6	260.3	178.6	503.5	84,150	230.5	89.6	98,324	404.6	97.2

(2) 訪問看護ステーションの状況

名称	利用者数	訪問看護延回数	従事者数	サービス内容
日赤訪問看護ステーション	人 176	回 6,478	人 9.3	訪問看護、訪問リハビリ、 居宅介護支援

(3) 運営状況

浜松市北部地域の中核病院として、地域に求められる救急医療体制の充実を図ると共に、地域医療支援病院、災害拠点病院として、地域住民や近隣医師会、行政などの期待に応えるべく、以下の項目に重点を置き病院運営を行った。

ア 救急医療及び災害医療の拡充

救急医療体制や診療機能の充実を図り、浜松市内の輪番制救急医療体制における二次救急医療機関の一つとして、年間で7,300人余りの救急患者を受け入れた。この中でも当院が立地する浜北区および周辺の天竜区や東区の救急患者は約75%余りを占め、浜松市北東部の市民病院的角色を果たしている。また、地域包括ケアシステムの推進にも寄与するため、外来受診から入院、退院までの医療・療養を一貫してサポートし、患者の在宅復帰支援を積極的に行った。

当院の総合防災訓練において、浜松市との「災害時の医療救護活動に関する協定」に基づく「病院前救護所」を設置して、救護所の運営や行政や医師会との連絡調整に関する訓練を実施した。浜松市からは主に以下の二点の効果をこの協定の締結により期待されている。第一に、災害時に地域に遍在する医師等を病院前に集約し役割分担することで、負傷者が殺到した場合にも迅速な医療救護活動を行うことが可能となること、もう一点は、応急救護所の医薬品・医療資器材を病院に集約し流通在庫方式で管理することにより廃棄・更新コストを大幅に削減できることである。本年度の総合防災訓練を通じて浜松市の期待に応えるべく救護体制の拡充を図った。

イ 医師確保と教育の推進

医師確保のために浜松医科大学、慶應義塾大学、藤田医科大学の各医局を訪問し、人員不足の診療科を中心とした派遣要請を行い、その結果、消化器内科、整形外科、形成外科で各1名の増員に結び付いた。

基幹型臨床研修病院として、ホームページによる募集、医学生に対する病院説明会へのブース出展や病院見学会などを実施して、新たに臨床研修医 6 名を迎え、計 12 名の研修を実施した。

また、研修医の教育以外にも全職員を対象に医療安全や感染管理に関する e-ラーニングを徹底し、安心安全な医療体制に努めた。

ウ 看護師の安定確保と看護の質の向上

看護師不足が進む中、看護師の安定確保と教育のために、看護大学や看護専門学校への訪問や積極的な実習生の受け入れを行った。又、ホームページを活用した募集広告や募集サイトの積極的活用や奨学生の募集により看護師確保に努めた。

認定看護師や看護師の特定行為研修などのスキルアップに対する支援や教育研修を充実させ、看護の質向上に取り組んだ。

エ 病院経営の健全化

より高度な医療を提供するためにハイケアユニット入院医療管理料の施設基準を取得し、積極的な救急患者の受け入れを行った。救急医療体制を強化しながら救急搬送受入件数を増やすことで、救急搬送件数は、前年度の 3,200 件余に対し本年度は 3,500 件余へと増加し、新入院患者の獲得や診療単価の向上に繋がった。更なる収入増加対策として、診療所等との一層の連携強化を図ることで紹介患者の増加に努めた結果、地域医療支援病院としての役割を果たすことが出来た。

院内での健診事業をより充実させるため、オプション検査の充実や内視鏡検査、保健指導の充実を図ることで、利用者数の増加に取り組んだ。

また、光熱費が高騰する中、診療材料の共同購入や放射線機器の共同保守等を利用しながら費用の抑制に努めた。

（４）訪問看護ステーションの運営

地域に根付いた医療を提供するため、研修や懇談会へ参加し多職種間の連携を深めた。また、自宅で最後まで寄り添いたいという家族の希望に応じるため、当院および地域の医師との連携により在宅看取りを強化した。

（５）施設等整備

超音波画像診断装置 4 式、総合肺機能検査システム、筋電図・誘発電位検査装置、医薬品バーコードチェックシステム、個人用多用途透析装置、麻酔システム、光学式眼軸長測定装置、密閉式自動固定包理装置、セントラルモニタ、眼底カメラ、心電計 2 式、除細動器、食器洗浄機、温冷配膳車、災害救援車、就業管理システム用ソフトウェア等を整備した。

(6) 決算概要

収益の収入および支出

(単位:円)

科目	予算現額			決算額	令和3年度 決算額
	当初予算額	補正予算額	計		
病院収益	7,695,890,000	0	7,695,890,000	7,731,299,870	8,347,731,000
医業収益	7,286,599,000	0	7,286,599,000	6,909,257,800	7,318,778,379
医業外収益	327,002,000	0	327,002,000	750,055,751	953,398,443
医療社会事業収益	0	0	0	0	0
付帯事業収益	81,936,000	0	81,936,000	71,422,021	70,716,205
特別利益	353,000	0	353,000	564,298	4,837,973
科目	予算現額				令和3年度 決算額
	当初予算額	補正予算額	流用増減	計	
病院費用	7,728,102,000	86,000,000	0	7,814,102,000	7,564,493,250
医業費用	7,572,936,000	75,000,000	0	7,647,936,000	7,408,175,878
医業外費用	69,403,000	10,000,000	0	79,403,000	76,071,657
医療奉仕費用	13,408,000	1,000,000	0	14,408,000	13,160,918
付帯事業費用	67,459,000	0	0	67,459,000	64,564,220
特別損失	3,550,000	0	0	3,550,000	1,205,716
法人税等	1,346,000	0	0	1,346,000	1,314,861
予備費	0	0	0	0	0
収支差引額	△ 32,212,000	△ 86,000,000	0	△ 118,212,000	166,806,620

資本の収入および支出

(単位:円)

科目	予算現額				決算額	令和3年度 決算額
	当初予算額	補正予算額	前年度繰越事業費充当額	計		
病院収入	655,168,000	125,425,000	0	780,593,000	557,472,539	657,068,076
固定負債	143,000,000	47,437,000	0	190,437,000	43,720,000	169,402,000
その他資本収入	512,168,000	77,988,000	0	590,156,000	513,752,539	487,666,076
科目	予算現額				決算額	令和3年度 決算額
	当初予算額	補正予算額	前年度事業費繰越額	計		
病院費	655,168,000	125,425,000	0	780,593,000	557,472,539	657,068,076
固定資産	234,893,000	125,425,000	0	360,318,000	137,714,335	227,467,604
借入金等償還	420,275,000	0	0	420,275,000	419,758,204	429,600,472
収支差引額	0	0	0	0	0	0

利益剰余金

(単位:円)

当期末処分利益(損失)A(a+b)	前期繰越利益(損失) a	当期純利益(損失) b	利益積立金B	利益剰余金合計(A+B)
△ 8,322,665,880	△ 8,489,472,500	166,806,620	0	△ 8,322,665,880

3 伊豆赤十字病院

(1) 診療状況の概要

病床数		職員数				入院患者数			外来患者数		
許可 病床数	実働 病床数	医師	看護師	その他	計	延数	1日 平均	1日平均 前年比	延数	1日 平均	1日平均 前年比
床	床	人	人	人	人	人	人	%	人	人	%
94	94	7.2	58.5	69.2	134.9	19,982	54.7	90.0	42,152	173.5	100.4

(2) 付帯施設の概要

ア 介護医療院の概要

職員数			利用者数			
看護師	その他	計	入所 介護医療院 96 人			居宅介護
			延数	1日平均	1日平均前年比	延数
人 15.7	人 31.6	人 47.3	人 31,746	人 87.0	% 102.0	人 462
サービス内容：入所療養、ケアプラン作成						

イ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の概要

利用者数					
通い（18 人）			泊り（9 人）		
延数	1日平均	1日平均前年比	延数	1日平均	1日平均前年比
人 4,699	人 12.9	% 97.0	人 1,939	人 8.0	% 119.4
サービス内容：通い、泊り、訪問介護、訪問看護					

ウ 訪問看護ステーションの概要

名称	利用者数	訪問看護延回数	従事者数	サービス内容
訪問看護ステーション 伊豆日赤	人 1,248	回 5,497	人 7.8	訪問看護、訪問リハビリ

(3) 運営状況

少子高齢化が進む地域における急性期医療から療養機能及び在宅医療・看護・介護を担うため、以下の事項を推進した。

本年度は常勤医師の減少や看護師不足、新型コロナウイルスのクラスター発生により、救急患者や入院患者の受け入れを制限したが、療養病床から地域包括ケア病床への転換をさらに進め、在宅へのスムーズな移行を支援するとともに診療単価を高めるなど収益強化を図った。また、医療・介

護・福祉の複合的医療サービスを提供する付帯施設は病院との連携により、利用者数を確保して黒字となった。

ア 診療体制

内科常勤医師 3 名のうち 1 名が年度途中で産・育休となったが、急性期医療から介護まで提供できる体制を構築するため、非常勤医師を確保して外来・当直の診療体制を維持した。在宅医療推進のため訪問看護ステーションと連携し、訪問診療を積極的に実施した。また、医師の負担軽減のため、「特定行為研修」看護師を外来に配置し、在宅医療を支える看護師の体制を築いた。

イ 地域包括ケア病床への転換

令和 5 年 3 月に療養病床 4 床を地域包括ケア病床へ転換して、急性期医療が終了した患者のスムーズな在宅復帰を推進した。また、毎朝のベッドコントロール会議によって、病床の有効利用、退院支援等における情報共有を図ることで、病院、介護医療院、看多機、訪問看護の効率的な利用につなげた。

ウ 在宅療養拠点事業の推進

在宅医療・訪問診療・訪問看護等の事業を推進するとともに地域住民への啓発活動として行政と共催して市民公開座談会を開催した。在宅介護、在宅看取りの経験のあるご家族と関わりのあった訪問診療や訪問看護、ケアマネをはじめとする多職種連携を推進した。

(4) 付帯事業施設の運営

ア 介護医療院

医療機能と生活施設としての機能を兼ね備え、長期療養者の受皿として開設した介護医療院は、病院やケアマネ等との連携強化を図ったことで増収となった。また、新型コロナウイルスのクラスター発生時には病院と連携して感染対策に努め、利用者の安心・安全な生活を支援した。

イ 看護小規模多機能型居宅介護事業所（レクロス小立野）

利用定員を増やしたことで、登録者数が増え、特に通い・泊まりを同時利用する利用者が増え、増収となった。利用者の住み慣れた地域で最期まで自分らしい生活を続けたい気持ちや、介護する家族の思いに応えていく介護サービスを行った。

ウ 訪問看護ステーション（訪問看護ステーション伊豆日赤）

コロナ禍で在宅を希望する患者・家族や入院控えや在宅看取りを希望する患者が増えた。一方、看護師不足とコロナ禍での負担増により、市内土肥地区の出張所の患者確保は図れなかったが、訪問診療やケアマネほかサービス事業者との連携を図った。

病院と付帯施設が一体となった伊豆赤十字病院全体の健全経営の維持を目指していく。

(5) 決算概要

収益の収入および支出

(単位:円)

科 目	予算現額			決算額	令和3年度 決算額
	当初予算額	補正予算額	計		
病院収益	2,189,456,000	0	2,189,456,000	2,206,730,234	2,328,867,221
医業収益	1,424,358,000	0	1,424,358,000	1,352,142,389	1,476,831,373
医業外収益	206,715,000	0	206,715,000	231,287,028	274,155,884
医療社会事業収益	1,881,000	0	1,881,000	3,773,168	3,550,526
付帯事業収益	556,234,000	0	556,234,000	619,527,649	574,148,461
特別利益	268,000	0	268,000	0	180,977
科 目	予算現額				令和3年度 決算額
	当初予算額	補正予算額	流用増減	計	
病院費用	2,138,976,000	80,300,000	0	2,219,276,000	2,031,812,483
医業費用	1,576,725,000	52,000,000	0	1,628,725,000	1,453,572,828
医業外費用	9,420,000	3,000,000	0	12,420,000	7,220,470
医療奉仕費用	2,788,000	0	0	2,788,000	1,200,619
付帯事業費用	544,332,000	25,300,000	0	569,632,000	569,576,447
特別損失	5,000,000	0	0	5,000,000	72,087
法人税等	711,000	0	0	711,000	170,032
予備費	0	0	0	0	0
収支差引額	50,480,000	△ 80,300,000	0	△ 29,820,000	323,151,754

資本の収入および支出

(単位:円)

科 目	予算現額				決算額	令和3年度 決算額
	当初予算額	補正予算額	前年度繰越事業費充当額	計		
病院収入	137,874,000	12,500,000	0	150,374,000	56,604,225	106,436,044
固定負債	98,751,000	2,700,000	0	101,451,000	12,271,000	62,902,000
その他資本収入	39,123,000	9,800,000	0	48,923,000	44,333,225	43,534,044
科 目	予算現額				決算額	令和3年度 決算額
	当初予算額	補正予算額	前年度事業繰越額	計		
病院費	137,874,000	12,500,000	0	150,374,000	56,604,225	106,436,044
固定資産	105,026,000	8,000,000	0	113,026,000	19,257,001	58,338,820
借入金等償還	32,848,000	4,500,000	0	37,348,000	37,347,224	48,097,224
収支差引額	0	0	0	0	0	0

利益剰余金

(単位:円)

当期末処分利益(損失)A(a+b)	前期繰越利益(損失) a	当期純利益(損失) b	利益積立金B	利益剰余金合計(A+B)
△ 992,142,238	△ 1,167,059,989	174,917,751	0	△ 992,142,238

4 引佐赤十字病院

(1) 診療状況の概要

病床数		職員数				入院患者数			外来患者数		
許可 病床数	実働 病床数	医師	看護師	その他	計	延 数	1 日 平均	1 日平均 前年比	延 数	1 日 平均	1 日平均 前年比
床	床	人	人	人	人	人	人	%	人	人	%
99	99	5.1	33.7	40.1	78.9	31,396	86.0	100.0	5,954	24.6	109.3

(2) 運営状況

当院は、浜松市北区を中心とした、地域の慢性期医療を担う医療療養型病院であり、入院の対象は、急性期病院での治療を終えた病状が安定しても引き続き入院加療を必要とする患者や慢性的な疾患をかかえる患者、看取りの患者が主である。

診療体制は、内科、整形外科及びリハビリテーション科であり、入院患者に対する医療的な生活補助や在宅復帰及び施設入所に向けたリハビリテーションなどを提供している。

本年度は、新型コロナウイルスの影響などで、急性期病院からの症状が重い転入院患者が多く、これに伴い看取りが増加したことで、前年度と比べて新規入院患者数は増加したものの、延べ入院患者数は殆ど変わらなかった。

医療療養型病院は、急性期病院と比べて、入院患者一人あたりの診療収益は低く、収益確保においては常に高い病床稼働率を維持する必要があるため、コロナ禍の環境変化に対応すべく、近隣医療機関との連携を強化して、新規入院患者の確保と効率的な病床管理に努めた。

ア 地域包括ケアシステムの推進

「地域住民が住みなれた地域で自分らしい暮らしを最後まで続けることができるよう」地域包括ケアシステムにおける医療療養型病院としての役割を果たす一方で、在宅患者支援のための訪問リハビリテーション、居宅介護支援事業所及び通所介護事業所を運営して、地域包括ケアシステムを推進した。

イ 診療体制の整備

(ア) 新型コロナウイルスやインフルエンザウィルス等に対応すべく、令和2年度に開設した発熱外来診療を継続して行い、本年度は延べ425人の患者を受け入れた。

また、臨時のコロナワクチン接種日を設けるなどして、外来患者、入院患者、職員を含めた延べ791人に対して接種を行った。

(イ) 静岡県からの要請を受けて、これまでのコロナ回復患者病床2床に加えて、自院で発生したコロナ患者の入院治療を継続するため、陰圧装置のある個室2床を整備した。

(ウ) 浜松市及びコロナ患者受入病院（二次救急医療機関）の要請を受けて、高齢者のコロナ軽症患者等の転院を受け入れた。

- (エ) 感染対策として入院患者への面会を制限する中で、ビデオ面会を実施するなどして患者や患者家族の思いに寄り添ったサービスの提供に努めた。
- (オ) 安心、安全な医療と介護を提供するため、職員の学会、研修会などへの参加を推奨して、知識と技術の向上を図った。

ウ 入院患者の確保

1 日平均入院患者数 90.0 人（病床稼働率 90.9%）を目標に、急性期病院からの紹介患者を中心に新規入院患者の確保に努めたところ、内科、整形外科ともに前年度と比べ増加した。

但し、内科は、急性期病院から受け入れた症状の重い患者の看取りが相次ぎ、延べ入院患者数は減少して、整形外科を含めた病院全体の 1 日平均入院患者数は 86.0 人（病床稼働率 86.9%）となり、目標は達成できなかった。

エ 外来患者の確保

1 日平均外来患者数 23.0 人を目標に、外来患者の確保に努めたところ、新型コロナウイルス第 7 波及び第 8 波の流行から発熱外来患者数が増加して、1 日平均外来患者数は 24.6 人となり、目標を達成した。

オ 医療事故・感染対策の取り組み

医療安全推進室が中心となって、医療事故発生の原因究明、再発防止策の検討及び職員への周知徹底を図るとともに、全職員を対象とした研修会を開催し医療事故の防止に努めた。

また、感染対策委員会による定期的な院内ラウンドを実施して、職場環境と感染対策の評価、指導を行い、マスク、ガウン、手袋などの衛生資材の安定確保に努めるとともに、防護服の着脱訓練を行うなど職員一丸となって感染対策に取り組んだ。

（3）介護事業施設の運営

併設した居宅介護支援事業所及び通所介護事業所を運営している。

居宅介護支援事業所は、新たな主任介護支援専門員の育成を図るなどして、更なるサービスの充実に努めた。

通所介護事業所は、新型コロナウイルス第 8 波の流行による事業所内感染を防ぐため、1 月 16 日から 22 日まで通常営業を停止して、一人暮らしとなる利用者等への自宅訪問サービスを実施した。

また、2 月からは、通常規模型サービスから地域密着型サービスへの転換を図り、利用者定員を 18 名に絞った小規模運営とすることで、これまでより利用者一人ひとりに寄り添った手厚いサービスを提供している。

(4) 決算概要

収益の収入および支出

(単位:円)

科 目	予算現額			決算額	令和3年度 決算額
	当初予算額	補正予算額	計		
病院収益	766,883,000	0	766,883,000	750,374,243	762,814,810
医業収益	672,673,000	0	672,673,000	651,767,725	652,257,805
医業外収益	42,973,000	0	42,973,000	52,564,478	60,556,109
医療社会事業収益	51,237,000	0	51,237,000	46,042,040	49,963,250
付帯事業収益	0	0	0	0	0
特別利益	0	0	0	0	37,646
科 目	予算現額			決算額	令和3年度 決算額
	当初予算額	補正予算額	流用増減		
病院費用	767,888,000	57,132,000	0	825,020,000	812,316,886
医業費用	708,496,000	54,236,000	0	762,732,000	758,375,675
医業外費用	4,655,000	2,846,000	0	7,501,000	9,322,190
医療奉仕費用	54,500,000	0	0	54,500,000	46,393,296
付帯事業費用	0	0	0	0	0
特別損失	0	50,000	0	50,000	44,074
法人税等	237,000	0	0	237,000	3,646
予備費	0	0	0	0	0
収支差引額	△ 1,005,000	△ 57,132,000	0	△ 58,137,000	△ 61,942,643

資本の収入および支出

(単位:円)

科 目	予算現額			決算額	令和3年度 決算額
	当初予算額	補正予算額	前年度繰越事業費充当額		
病院収入	4,107,000	3,145,000	0	7,252,000	6,352,276
固定負債	898,000	1,890,000	0	2,788,000	1,888,700
その他資本収入	3,209,000	1,255,000	0	4,464,000	4,463,576
科 目	予算現額			決算額	令和3年度 決算額
	当初予算額	補正予算額	前年度事業費繰越額		
病院費	4,107,000	3,145,000	0	7,252,000	6,352,276
固定資産	898,000	3,145,000	0	4,043,000	3,417,700
借入金等償還	3,209,000	0	0	3,209,000	2,934,576
収支差引額	0	0	0	0	0

利益剰余金

(単位:円)

当期末処分利益(損失)A(a+b)	前期繰越利益(損失) a	当期純利益(損失) b	利益積立金B	利益剰余金合計(A+B)
△ 1,197,594,762	△ 1,135,652,119	△ 61,942,643	0	△ 1,197,594,762

5 裾野赤十字病院

(1) 診療状況の概要

病床数		職員数				入院患者数			外来患者数		
許可 病床数	実働 病床数	医師	看護師	その他	計	延数	1日 平均	1日平均 前年比	延数	1日 平均	1日平均 前年比
床	床	人	人	人	人	人	人	%	人	人	%
104	104	8.3	53.0	51.4	112.7	25,278	69.3	110.7	26,672	99.5	95.7

(2) 訪問看護ステーションの状況

名称	利用者数	訪問看護延回数	従事者数	サービス内容
訪問看護ステーション すその日赤	人 52	回 2,260	人 4	訪問看護

(3) 運営状況

当院は、裾野市唯一の二次救急病院であり、第二種感染症指定医療機関である。

入院患者数は、職員一丸となって確保に努めた結果、前年度に比べ 10.7%増となったが、入院診療単価の低下が影響し、入院診療収益は前年度比 8.2%減となった。

また外来患者数は医師数の減少等が影響し、前年度に比べ 4.3%減、外来診療収益は前年度比 9.7%減となった。

地域との関わりについては、サービス向上委員会を年2回開催し、裾野市民の代表の方との意見交換を実施した。また、地域防災会議への参加、地域の行事への救護スタッフ派遣、糖尿病料理講習会の実施等、地域を支える病院としての役割を果たせるよう努めた。

ア 医療体制の充実強化

本年度は、3階病棟の一部病床（22床）を地域包括ケア病床に変更したことで、一般病床 98床（内 地域包括ケア病床 71床）、感染症病床6床とし、地域医療のニーズに応えられる体制を図った。また、在宅医療推進のため訪問診療の回数を増やすと共に、令和5年3月に在宅療養支援病院の施設基準の届け出を行い、更なる体制強化に努めた。

イ 地域医療連携の充実

紹介元である高次医療機関との連携会議に病院幹部が参加し、積極的な連携構築に努めた。また、入院の紹介・受け入れ相談・退院支援の推進を図る為に、病院案内パンフレットを刷新し、地域医療連携の充実に努めた。

ウ 医療安全体制の充実強化

ＩＣＴ（感染対策チーム）と医療安全管理者等による院内巡視を行い、医療安全管理体制の充実強化を図った。

また、全職種の職員による、玄関での来院者発熱トリアージを実施するなど、感染対策に努めた。

エ 常勤医師の確保

通常の当直業務の他、輪番制の一次救急・二次救急の当番、また、感染症指定医療機関としての新型コロナウイルス患者の対応等、近隣市町の求める診療体制を維持するためには、安定的な医師の確保が必要である。

令和４年５月に内科医師１名が退職したが、施設長による近隣の医療施設訪問を行う他、医師紹介会社からの情報の収集、病院ホームページに医師募集サイトの掲載を行う等、医師確保に向けて努力した結果、令和４年８月に内科常勤医師を確保し、本年度の常勤医師は６名（内科４名、外科１名、整形外科１名）となった。

オ 看護師等の確保

看護師等の採用については、本社指示により原則退職不補充となっている。病院運営に必要最低限の看護師等を確保するため、本社と協議した結果、看護助手については、入院患者数に合わせた派遣形態での採用許可が得られ募集に努めたが、応募者が少なく確保に困難な状態が続いた。

カ 医療機器等の整備

設備関係では、３階病棟一部の地域包括ケア病床への変更に伴い、浴室・トイレ等水回り関係の更新工事を実施した。

医療機器関係では、新型コロナウイルスの関連補助金を活用し、医用画像管理システムや等温遺伝子増幅装置等を整備したほか、裾野市の補助金により、無散瞳眼底カメラ・上部消化管汎用ビデオスコープ等を整備した。

キ 経営改善

本部管理病院に指定されていることから、業務キャッシュフローの黒字化を目標に本社と継続的な打ち合わせを実施した。

また、院内では病院幹部で構成する経営改善推進本部を中心に経営改善に努めた結果、前年度に比べ医業収支の赤字幅は減少した。

本年度も新型コロナウイルス感染症包括支援事業等の補助金収益で経常収支は黒字となった。

(4) 決算概要

収益の収入および支出

(単位:円)

科 目	予算現額			決算額	令和3年度 決算額
	当初予算額	補正予算額	計		
病院収益	1,532,227,000	0	1,532,227,000	1,903,356,654	1,944,673,795
医業収益	1,345,259,000	0	1,345,259,000	1,278,751,501	1,325,094,104
医業外収益	163,414,000	0	163,414,000	603,999,976	599,265,694
医療社会事業収益	2,554,000	0	2,554,000	2,517,000	2,500,000
付帯事業収益	21,000,000	0	21,000,000	18,081,937	16,893,623
特別利益	0	0	0	6,240	920,374
科 目	予算現額				令和3年度 決算額
	当初予算額	補正予算額	流用増減	計	
病院費用	1,578,737,000	7,000,000	0	1,585,737,000	1,470,744,968
医業費用	1,539,730,000	0	0	1,539,730,000	1,428,246,653
医業外費用	4,941,000	0	0	4,941,000	3,860,864
医療奉仕費用	335,000	0	0	335,000	334,437
付帯事業費用	31,731,000	5,000,000	0	36,731,000	35,097,248
特別損失	2,000,000	2,000,000	0	4,000,000	3,205,766
法人税等	0	0	0	0	0
予備費	0	0	0	0	0
収支差引額	△ 46,510,000	△ 7,000,000	0	△ 53,510,000	432,611,686

資本の収入および支出

(単位:円)

科 目	予算現額				決算額	令和3年度 決算額
	当初予算額	補正予算額	前年度繰越事業費充当額	計		
病院収入	78,315,000	38,616,000	0	116,931,000	72,347,062	186,309,319
固定負債	22,283,000	28,954,000	0	51,237,000	36,976,000	157,200,280
その他資本収入	56,032,000	9,662,000	0	65,694,000	35,371,062	29,109,039
科 目	予算現額				決算額	令和3年度 決算額
	当初予算額	補正予算額	前年度事業費繰越額	計		
病院費	78,315,000	38,616,000	0	116,931,000	72,347,062	186,309,319
固定資産	33,584,000	38,616,000	0	72,200,000	52,568,125	151,492,720
借入金等償還	44,731,000	0	0	44,731,000	19,778,937	34,816,599
収支差引額	0	0	0	0	0	0

利益剰余金

(単位:円)

当期末処分利益(損失)A(a+b)	前期繰越利益(損失) a	当期純利益(損失) b	利益積立金B	利益剰余金合計(A+B)
△ 290,241,000	△ 722,852,686	432,611,686	0	△ 290,241,000

Ⅲ 血液事業概要

静岡県赤十字血液センター

県内では、新型コロナウイルスによる感染状況が続くなか、社会経済活動の制限が徐々に緩和に向かうことで、企業献血や学校献血の受け入れ再開が進み始めた。また、令和4年9月から献血カードアプリのサービスを開始し、携帯端末で事前問診が可能となったことや、献血予約期限も前日17時から当日3時間前に短縮されるなどにより、予約献血者が増えたことで、休日の商業施設を会場とした献血者確保が進む結果となったが、献血の機会を取り戻すまでには至らず、年間計画とした必要献血者数132,540人^{*1}に対する実績は、99.0%の131,274人を確保する結果となった。

若年層対策としては、高校、大学の校内献血を積極的に実施するとともに、学生献血ボランティアの募集・育成、献血セミナーの開催などを通じて、引き続き献血啓発に努めた。

輸血用血液製剤の供給数は、血漿製剤は昨年度に続き減少した一方で、赤血球製剤、血小板製剤が増加し429,343単位で対前年比100.2%となった。新型コロナウイルスによる影響が続く中、輸血用血液製剤の需要動向を注視し、県内の血液型別在庫状況を把握し管理を徹底するとともに、東海北陸ブロック血液センターと連携して的確な需要予測を行うことで輸血用血液製剤の安定供給と有効利用に努めた。

また、令和5年3月15日から赤血球製剤の有効期限が21日間から28日間と延長され、今後は医療機関への安定供給に繋がると考える。

(1) 献血及び供給状況の推移

年度	献血状況		供給状況	
	献血者数(人)	対前年比(%)	供給数(単位)	対前年比(%)
平成30年度	123,665	98.9	429,835	95.0
令和元年度	127,327	103.0	452,881	105.4
令和2年度	131,251	103.1	435,333	96.1
令和3年度	134,550	102.5	428,493	98.4
令和4年度	131,274	97.6	429,343	100.2

(2) 献血者数及び献血率

職員数 (医師) R5.3.31 現在	献血可能 人口 R2.10 月現在	上段：献血目標(人)				達成率 (%)	献血率 (%)	対前年比 献血者数 (%)
		下段：献血実績(人)						
		200mL	400mL	成 分	合 計			
静岡センター 71(2)	719,426	1,135	32,565	15,025	48,725	87.3	5.9	95.7
		1,247	28,776	12,508	42,531			
沼津事業所 63(2)	731,325	1,215	32,600	14,550	48,365	93.1	6.2	99.9
		1,997	29,380	13,656	45,033			
浜松事業所 56(2)	835,584	1,250	32,935	15,025	49,210	88.8	5.2	97.0
		1,671	29,237	12,802	43,710			
合 計 190(6) *3	2,286,335	3,600	98,100	44,600	146,300 *2	89.7	5.7	97.6
		4,915	87,393	38,966	131,274			

*1 必要献血者数（132,540 人）

ブロック内の需給見込みから割り当てられた静岡県での採血必要人数。

*2 献血目標（146,300 人）

必要献血者数を確保するために服薬や事前の検査などで献血できない方をあらかじめ見込んで設定する目標人数（＝献血受付け者数）

*3 嘱託・パート含む実数

(3) 供給単位数及び内訳

静岡県内への供給本数

区分 施設名	総供給数 (単位)	全血 製剤	構成比 (%)	赤血球 製 剤	構成比 (%)	血 漿 製 剤	構成比 (%)	血小板 製 剤	構成比 (%)
静岡センター	154,491	0	—	60,151	38.9	18,729	12.1	75,611	49.0
沼津事業所	131,926	0	—	58,939	44.7	12,637	9.6	60,350	45.7
浜松事業所	142,926	0	—	54,440	38.1	14,176	9.9	74,310	52.0
合 計	429,343	0	—	173,530	40.4	45,542	10.6	210,271	49.0

※「構成比」は端数処理しているため、合計が必ずしも 100%にはならない。

(4) 献血推進運動

ア 愛の血液助け合い運動

7月1日から31日まで、国・都道府県・日本赤十字社の主催で多数の後援団体、協賛団体の協力を得て全国一斉に「愛の血液助け合い運動」を行った。

静岡県内における「愛の血液助け合い運動」では、県健康福祉部と協力して立て看板の設置や、ポスターを各市町、事業所等関係機関に配布し、啓発に努めた。

イ 全国学生献血キャンペーン

学生献血ボランティアが、7月と8月に「東海北陸ブロック統一学生サマー献血キャンペーン」、12月に「全国学生クリスマス献血キャンペーン」を静岡市、富士宮市、浜松市において開催した。献血が不足する時期のキャンペーンは効果的であり、大学生たちが同年代の若者に献血への理解と協力を呼びかけた。

ウ はたちの献血キャンペーン

1月1日から2月28日まで、一般社団法人日本民間放送連盟、一般社団法人日本コミュニティ放送協会及び一般社団法人日本民営鉄道協会の協力を得て実施した。

また、女優の高橋ひかるさん、国民的ヒーローのウルトラマンがキャンペーンキャラクターとなり、マスメディアなどを通じ若者に対して血液の知識、献血の重要性を訴えるなど、広くキャンペーンの周知を行った。

エ その他の事業

静岡県から「献血思想定着推進事業」を委託され、学生ボランティアの育成や支援などを実施した。また、献血未実施の高等学校を訪問し3校で献血を実施するなど効果が得られた。

オ 第58回献血運動推進全国大会

7月14日、愛媛県の県民文化会館メインホールにおいて、日本赤十字社名誉副総裁である秋篠宮皇嗣妃殿下ご臨席のもと、献血運動推進全国大会（主催：厚生労働省・愛媛県・日本赤十字社）が開催された。

カ 静岡県献血推進大会

7月22日に静岡労政会館において、関係者約120人が出席して開催された。県民に献血への一層の協力を呼び掛けるとともに、日頃から献血推進に積極的に協力し貢献した団体に、厚生労働大臣表彰状および感謝状、静岡県知事褒章、日本赤十字社有功章、日本赤十字社静岡県支部長感謝状の贈呈が行われた。

表彰団体数及び表彰者数

◆厚生労働大臣表彰状	3 団体	
◆厚生労働大臣感謝状	9 団体	
◆静岡県知事褒賞	9 団体	
◆日本赤十字社金色有功章	〈個人〉 202 人	〈団体〉 13 団体
◆日本赤十字社銀色有功章	〈個人〉 256 人	〈団体〉 18 団体
◆日本赤十字社静岡県支部長感謝状（金枠）		15 団体
◆日本赤十字社静岡県支部長感謝状（銀枠）		14 団体

（５）骨髄ドナー登録事業

骨髄バンク事業は、「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」に基づく骨髄・末梢血幹細胞提供あっせん事業者としての日本骨髄バンクが主体となり、日本赤十字社と都道府県等の協力によって行われ、血液センターは骨髄提供希望者に対する登録受付及び登録データ管理業務を実施した。

本年度も静岡県との協力によって、574 人の登録者を確保した。

登録者数

◆令和5年3月末現在	9, 160人（静岡県内）
	544, 305人（全国）

Ⅳ 資料

1 静岡県支部役職員名簿・奉仕者組織役員名簿

<役員>

(令和5年3月31日現在)

役 名	氏 名	公 職
支 部 長	川 勝 平 太	静岡県知事
副 支 部 長	菊 地 豊	伊豆市長
//	太 田 康 雄	森町長
//	八 木 敏 裕	静岡県健康福祉部長
監 査 委 員	遠 藤 一 秀	遠藤科学株式会社 取締役社長
//	鈴 木 雅 春	元 静岡県監査委員事務局長
//	村 上 勇 夫	前 静岡県自治会連合会副会長
理 事	(欠員)	
代 議 員	菊 地 豊	伊豆市長
//	太 田 康 雄	森町長
//	榊 原 昭 雄	日本赤十字社静岡県支部協賛委員会会長
//	廣 野 篤 男	浜松市自治会連合会会長
//	小 木 絹 代	静岡県地域赤十字奉仕団委員会委員長
//	松 永 博	静岡県無線赤十字奉仕団委員長
//	鈴 木 雅 春	元 静岡県監査委員事務局長

<評議員>

(令和5年3月31日現在)

氏 名	職 業 及 び 公 職	地 区 支部長 選出別	備 考
田 辺 信 宏	静岡市長	静 岡 市 選 出	
中 村 直 保	静岡市自治会連合会会長(駿河区)	静 岡 市 //	
田 宮 文 雄	静岡市自治会連合会副会長(清水区)	静 岡 市 //	
鈴 木 康 友	浜松市長	浜 松 市 //	
廣 野 篤 男	浜松市自治会連合会会長	浜 松 市 //	本社代議員
加 藤 君 子	浜松市天竜赤十字奉仕団委員長	浜 松 市 //	
頼 重 秀 一	沼津市長	沼 津 市 //	
菅 沼 厚 子	沼津市赤十字奉仕団委員長	沼 津 市 //	
小長井 義 正	富士市長	富 士 市 //	
秋 山 珠 美	富士市赤十字奉仕団委員長	富 士 市 //	
齊 藤 栄	熱海市市長	熱 海 市 //	
豊 岡 武 士	三島市長	三 島 市 //	

氏 名	職 業 及 び 公 職	地 区 支部長	選出別	備 考
須 藤 秀 忠	富士宮市長	富士宮市	//	
小 野 達 也	伊東市長	伊 東 市	//	
染 谷 絹 代	島田市長	島 田 市	//	
草 地 博 昭	磐田市長	磐 田 市	//	
中 野 弘 道	焼津市長	焼 津 市	//	
久 保 田 崇	掛川市長	掛 川 市	//	
北 村 正 平	藤枝市長	藤 枝 市	//	
勝 又 正 美	御殿場市長	御殿場市	//	
大 場 規 之	袋井市長	袋 井 市	//	
松 木 正一郎	下田市長	下 田 市	//	
村 田 悠	裾野市長	裾 野 市	//	
影 山 剛 士	湖西市市長	湖 西 市	//	
菊 地 豊	伊豆市長	伊 豆 市	//	副支部長／本社代議員
柳 澤 重 夫	御前崎市長	御前崎市	//	
長谷川 寛 彦	菊川市長	菊 川 市	//	
山 下 正 行	伊豆の国市長	伊豆の国市	//	
杉 本 基久雄	牧之原市長	牧之原市	//	
太 田 康 雄	森町長	周 智 郡	//	副支部長／本社代議員
深 澤 準 弥	松崎町長	賀 茂 郡	//	
仁 科 喜世志	函南町長	田 方 郡	//	
池 谷 晴 一	小山町長	駿 東 郡	//	
田 村 典 彦	吉田町長	榛 原 郡	//	
榊 原 昭 雄	日本赤十字社静岡県支部協賛委員会会長	支 部 長 選 出		本社代議員
山 口 郊治郎	日本赤十字社静岡県有功会委員	//		
小 木 絹 代	静岡県地域赤十字奉仕団委員会委員長	//		本社代議員
松 永 博	静岡県無線赤十字奉仕団委員長	//		本社代議員
後 藤 康 雄	(福) 静岡県共同募金会会長	//		
神 原 啓 文	(福) 静岡県社会福祉協議会会長	//		
横 山 秀 雄	(株) 静岡新聞社 常務取締役	//		
近 藤 浩 通	静岡県青少年赤十字指導者協議会会長	//		

(任期：令和4年2月14日～令和7年2月13日)

＜赤十字奉仕団静岡県支部委員会役員＞

（令和5年3月31日現在）

役 名	氏 名	奉 仕 団 及 び 役 名
委 員 長	小 木 絹 代	静岡県地域赤十字奉仕団委員会委員長 浜松市浜北赤十字奉仕団委員長
副委員長	加 藤 君 子	静岡県地域赤十字奉仕団委員会副委員長 浜松市天竜赤十字奉仕団委員長
//	松 永 博	静岡県無線赤十字奉仕団委員長
//	菅 沼 博 明	静岡県赤十字水上安全奉仕団委員長

（任期：令和3年5月27日～令和5年5月26日）

＜日本赤十字社静岡県支部協賛委員会役員＞

（令和5年3月31日現在）

役 名	氏 名	市 町 及 び 役 名
会 長	榊 原 昭 雄	沼津市 静岡県自治会連合会会長
副会長	廣 野 篤 男	浜松市 静岡県自治会連合会副会長
//	山 下 聖 秋	三島市 静岡県自治会連合会会計

（任期：令和3年4月20日～令和5年4月19日）

＜日本赤十字社静岡県有功会役員＞

（令和5年3月31日現在）

役 名	氏 名	支 会 及 び 役 名
会 長	片 川 昭 壽	日本赤十字社静岡県有功会島田市支会会長
副会長	池 谷 滋 雄	日本赤十字社静岡県有功会富士宮市支会会長
//	菅 沼 成 欣	日本赤十字社静岡県有功会湖西市支会会長
//	山 本 良 一	日本赤十字社静岡県有功会三島市支会会長

（任期：令和3年5月31日～令和5年5月30日）

＜地域赤十字奉仕団結成状況＞

（令和５年３月３１日現在）

奉仕団名		委員長	団員数		
			男	女	計
1	下田市	大黒 愛子	0	40	40
2	伊東市	吉岡 マサエ	0	380	380
3	熱海市	大竹 順子	33	272	305
4	伊豆市	青木 恵子	3	97	100
5	伊豆の国市	天野 えり子	0	276	276
6	三島市	眞野 順子	2	46	48
7	沼津市	菅沼 厚子	4	269	273
8	裾野市	根本 年代	0	276	276
9	御殿場市	比嘉 悦子	0	66	66
10	富士宮市	望月 勇	10	25	35
11	富士市	秋山 珠美	15	62	77
12	静岡市清水区	加藤 智代	6	50	56
13	静岡市葵・駿河区	水谷 倫子	9	311	320
14	焼津市焼津	山本 道子	0	237	237
15	焼津市大井川	村松 朝代	2	92	94
16	藤枝市藤枝	菊川 厚代	8	42	50
17	藤枝市岡部	大須賀 直子	0	125	125
18	島田市	森下 文子	0	219	219
19	牧之原市	八木 公代	4	325	329
20	御前崎市	村松 澄子	0	338	338
21	菊川市	木村 敏子	1	69	70
22	掛川市	武田 和子	3	303	306
23	袋井市	栗原 光子	1	46	47
24	磐田市	田村 光子	2	59	61
25	浜松市雄踏	高橋 光子	0	30	30
26	浜松市引佐	森下 友子	0	5	5
27	浜松市三ヶ日	長坂 壽美代	0	36	36
28	浜松市天竜	加藤 君子	8	147	155
29	浜松市春野	喚田 恵子	0	17	17
30	浜松市佐久間	平賀 むつみ	1	52	53
31	浜松市浜北	小木 絹代	4	50	54
32	湖西市	山口 萬知子	0	79	79
33	松崎町	佐藤 勝子	0	25	25
34	函南町	泉明寺 葉子	0	102	102
35	清水町	山本 加奈恵	0	26	26
36	長泉町	渡邊 靖子	14	103	117
37	小山町	小宮山 富枝	0	50	50
38	吉田町	塚本 里子	0	112	112
39	川根本町	中野 久江	0	93	93
40	森町	平岡 美和子	0	3	3
計			130	4,955	5,085

<県支部・施設 幹部職員>

(令和5年3月31日現在)

施 設 名	職 名	氏 名
日本赤十字社静岡県支部	事 務 局 長	鈴 木 亨
	事 務 局 次 長	上 野 秀 実
	事 務 局 付 部 長	梶 山 和 彦
	総 務 課 長 (兼)	上 野 秀 実
	組 織 振 興 課 長 (兼)	梶 山 和 彦
	事 業 推 進 課 長	橋 本 茂 昭
	参 事	脇 田 朱 己
静 岡 赤 十 字 病 院	院 長	小 川 潤
	副 院 長	久保田 英 司
	副 院 長	稲 葉 浩 久
	事 務 部 長	山 梨 正 人
	看 護 部 長	下 山 美 穂
浜 松 赤 十 字 病 院	院 長	奥 田 康 一
	副 院 長	俵 原 敬
	副 院 長	西 脇 眞
	副 院 長	荻 原 弘 晃
	事 務 部 長	落 合 肇
	看 護 部 長	小 林 儿 三
伊 豆 赤 十 字 病 院	院 長	吉 田 剛
	事 務 部 長	矢 田 幸 政
	看 護 部 長	城 所 志津江
引 佐 赤 十 字 病 院	院 長	山 本 隆 久
	事 務 部 長	東 日出也
	看 護 部 長	伊 藤 宏 子
裾 野 赤 十 字 病 院	院 長	芦 川 和 広
	事 務 部 長	杉 山 善 彦
	看 護 部 長	櫻 井 真理子
静岡県赤十字血液センター	所 長	鶴 田 憲 一
	副 所 長	北 折 健次郎
	事 務 部 長	加 藤 和 彦
	事 業 推 進 部 長	藤 村 優 二
	沼 津 事 業 所 長	旗 持 俊 洋
	浜松事業所長(兼)	加 藤 和 彦

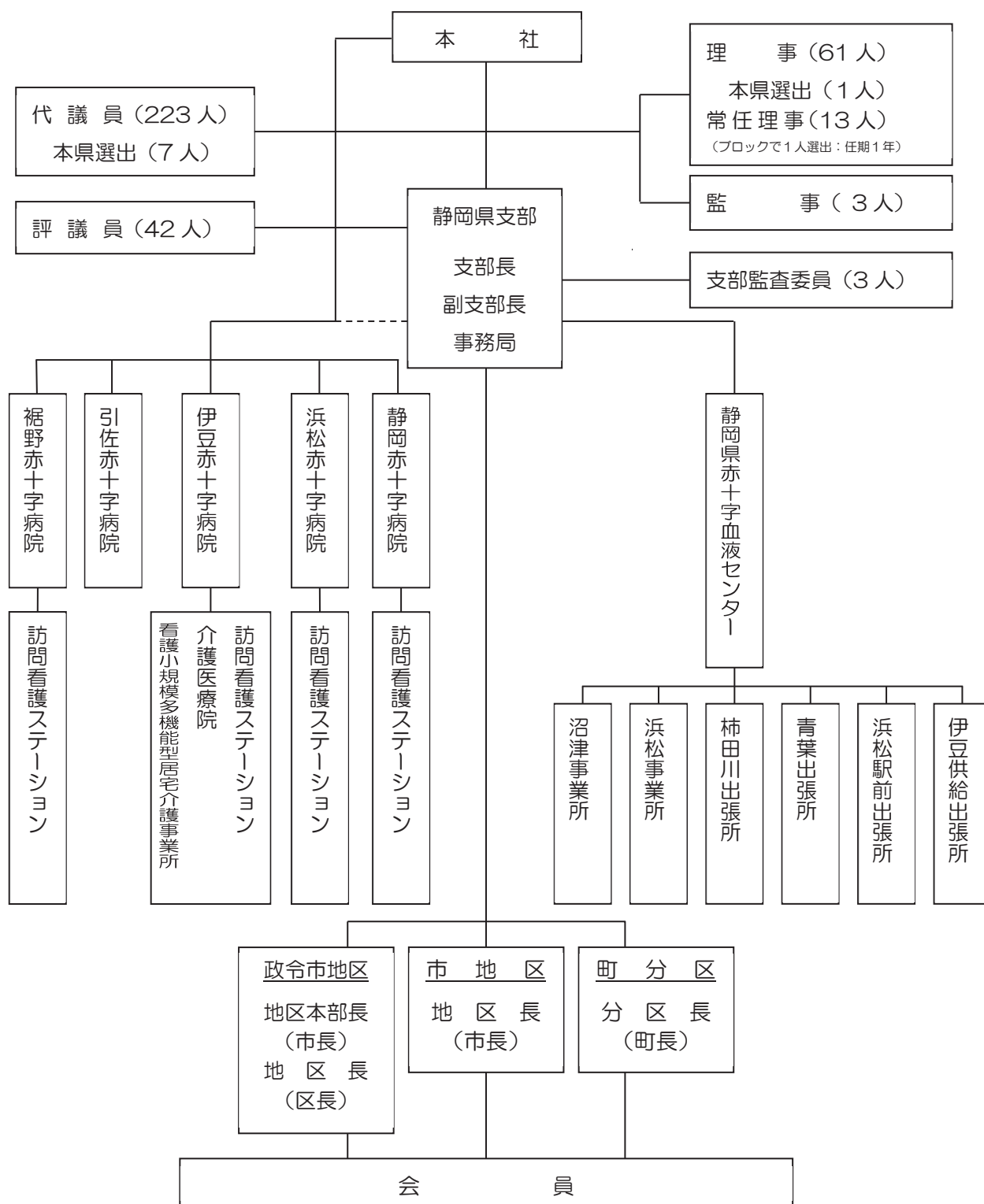
2 令和4年度主要行事一覧

月	日	行 事 名	開催場所
4 月	12 日 20 日 21 日 25 日～26 日 26 日 27 日	地区区分赤十字運動打ち合わせ会 日本赤十字社静岡県支部協賛委員会 静岡県青少年赤十字指導者協議会評議員会 県内赤十字施設新規採用職員研修会 静岡県地域赤十字奉仕団委員会 地区区分新任実務担当者研修会	静岡県産業経済会館 静岡県支部 静岡県教育会館 Web 静岡県産業経済会館 静岡県支部
5 月	19 日 26 日 30 日 31 日	全国赤十字大会 赤十字奉仕団静岡県支部委員会 日本赤十字社静岡県有功会総会 日本赤十字社静岡県支部監査委員監査	東京都 静岡県産業経済会館 ホテルアソシア静岡 静岡県支部
6 月	9 日 10 日 15 日・20 日 16 日 21 日～22 日 24 日	日本赤十字社静岡県支部評議員会 静岡県青少年赤十字指導担当者研修会 救護員基礎研修 静岡県青少年赤十字校長・副校長・教頭研修会 第3ブロック賛助奉仕団連絡協議会 日本赤十字社理事会・代議員会	静岡県産業経済会館 静岡県支部 静岡県支部 静岡県産業経済会館 熱海市 東京都
7 月	7 日 14 日 22 日	地域赤十字奉仕団ボランティア・リーダーシップ研修会（東部） 地域赤十字奉仕団ボランティア・リーダーシップ研修会（西部） 静岡県献血推進大会	コンベンション沼津 掛川グランドホテル 静岡県労政会館
8 月	23 日～24 日 30 日	県内赤十字施設中堅職員研修会 静岡県総合防災訓練（本部運営訓練）	Web 静岡県庁
9 月	4 日 12 日～13 日 13 日 28 日～29 日	静岡県・島田市・牧之原市・吉田町・川根本町総合防災練 県内赤十字施設係長研修会 第3ブロック奉仕団委員長・担当者会議 地域奉仕団活性化委員会視察研修	島田市立島田第一中学校 Web Web 滋賀県近江八幡市
10 月	1 日 6 日 13 日 13 日 15 日 30 日	大規模地震時医療活動訓練 紺綬・有功会会長協議会総会 静岡県地域赤十字奉仕団委員会 地域赤十字奉仕団活性化委員会 静岡県支部・県内赤十字病院合同災害救護訓練 第10回赤十字救急法競技会	航空自衛隊浜松基地他 大阪市 静岡県産業経済会館 静岡県支部 静岡県支部・県内赤十字病院 グランシップ
11 月	3 日 8 日 13 日 13 日 19 日～20 日 25 日	第3ブロック支部合同災害救護訓練 日本赤十字豊田看護大学支部長推薦選考試験 青少年赤十字創設100周年記念静岡県大会 緊急消防援助隊全国合同訓練 第2ブロック支部総合訓練 日本赤十字社理事会	諏訪赤十字病院 静岡県支部 あざれあ 施工技術総合研究所 秦野赤十字病院他 東京都
12 月	1 日～25 日	NHK 海外たすけあいキャンペーン	県内各地
1 月	17 日	地震対策オペレーション 2023	静岡県庁
2 月	4 日 7 日 7 日 17 日～21 日	静岡県原子力防災訓練 日本赤十字社静岡県支部評議員会 地域赤十字奉仕団活性化委員会 救急法指導員養成講習・幼児安全法指導員養成講習	新東名高速道路浜松サービスエリア 静岡県産業経済会館 静岡県支部 静岡県支部
3 月	1 日・2 日 14 日～15 日 17 日	炊き出しリーダー養成講習会 有功会視察研修 日本赤十字社理事会・代議員会	静岡県支部 群馬県 東京都

3 日本赤十字社静岡県支部の機構及び沿革

(1) 機 構

(令和5年3月31日現在)



(2) 沿 革

明治22年10月 静岡市駿府町に日本赤十字社静岡委員部発足
明治28年 1月 静岡委員部を静岡支部と改称
昭和 8年 6月 日本赤十字社静岡支部病院＜静岡赤十字病院＞開設
昭和 9年 7月 日本赤十字社静岡支部伊豆診療所＜伊豆赤十字病院＞開設
昭和13年 3月 日本赤十字社静岡支部浜松診療所＜浜松赤十字病院＞開設
昭和17年11月 日本赤十字社静岡支部中駿診療所＜中駿赤十字病院＞開設
昭和18年 1月 静岡赤十字病院発足
昭和20年 4月 浜松赤十字病院発足
昭和21年 6月 日本赤十字社静岡支部引佐診療所＜引佐赤十字病院＞開設
昭和26年 3月 引佐赤十字病院発足
昭和26年 8月 伊豆赤十字病院発足
昭和27年 7月 中駿赤十字病院発足
昭和27年10月 静岡支部を静岡県支部と改称
昭和28年 9月 静岡県支部静岡市追手町に移転
昭和38年10月 浜松療護園の経営管理を県より受託＜浜松リハビリテーションセンター＞
昭和39年10月 静岡県赤十字会館竣工
昭和39年11月 静岡県赤十字血液銀行＜静岡県赤十字血液センター＞開設
昭和39年12月 静岡県赤十字血液センター発足
昭和40年 7月 静岡県赤十字血液センター浜松出張所＜浜松赤十字血液センター＞開設
昭和45年 4月 静岡県赤十字血液センター沼津出張所＜沼津赤十字血液センター＞開設
昭和45年 5月 浜松赤十字血液センター独立開設
昭和57年 3月 静岡県赤十字血液センター 静岡市北安東に新築（移転）工事竣工
昭和60年 2月 静岡赤十字病院本館増改築工事竣工
昭和61年 4月 浜松療護園を浜松リハビリテーションセンターに改称
昭和63年 3月 静岡県沼津赤十字血液センター新築工事竣工
昭和63年 5月 浜松赤十字血液センター浜松駅出張所＜メイ・ワン献血ルーム＞開設
平成 2年 4月 静岡県赤十字血液センター青葉出張所＜あおば献血ルーム＞開設
平成 4年 5月 静岡赤十字病院救命救急センター開設
平成 7年 3月 静岡赤十字看護専門学校 静岡市与一に新築移転
平成 8年 3月 引佐赤十字病院新築・改装工事竣工
平成 8年10月 静岡県沼津赤十字血液センター沼津駅前出張所＜献血ルームパレット＞開設
平成 8年11月 静岡赤十字病院災害拠点病院＜地域災害医療センター＞に県より指定
平成 9年 3月 伊豆赤十字病院新改築工事竣工
平成 9年 6月 静岡赤十字病院別館増改築工事竣工
平成 9年 7月 中駿赤十字病院を裾野赤十字病院に改称
平成 9年12月 裾野赤十字病院増改築工事竣工
平成10年 3月 日本赤十字社静岡県支部新社屋建築工事竣工

平成11年 1月 浜松赤十字血液センター耐震総改築工事竣工

平成12年 3月 浜松赤十字血液センター浜松駅前出張所〈献血ルームみゅうず〉移転開設

平成12年 4月 県内血液センターの一体化に伴い、浜松赤十字血液センターを静岡県浜松赤十字血液センターと改称

平成13年 3月 静岡県赤十字血液センター青葉出張所〈献血ルームあおば〉移転開設

平成14年 3月 浜松リハビリテーションセンター廃園

平成14年 4月 伊豆赤十字病院介護老人保健施設〈グリーンズ修善寺〉開設

平成15年 3月 静岡県沼津赤十字血液センター沼津駅前出張所〈献血ルームエイブル〉移転開設

平成16年 3月 静岡県赤十字血液センター事務棟増築改修工事竣工

平成17年 3月 静岡赤十字看護専門学校閉校

平成19年11月 浜松赤十字病院 浜松市浜北区小林に移転開院

平成24年 3月 血液事業のブロックセンター設置に伴い静岡県沼津赤十字血液センター及び静岡県浜松赤十字血液センターを廃止（平成24年4月より事業所として運営）

平成24年 7月 静岡県赤十字血液センター沼津事業所柿田川出張所〈献血ルーム・柿田川〉移転開設

平成24年11月 静岡赤十字病院3号館竣工

平成25年 7月 浜松赤十字病院災害拠点病院〈地域災害医療センター〉に県より指定

平成26年 1月 静岡赤十字病院1号館（北側部分）竣工

平成26年 4月 静岡県赤十字血液センター伊豆供給出張所開設

平成26年10月 浜松赤十字病院内支部災害救護倉庫竣工

平成27年11月 静岡赤十字病院1号館（南側部分）竣工

平成28年11月 静岡赤十字病院（全面）竣工

平成31年 4月 静岡赤十字病院〈しずおか日赤訪問看護ステーション〉開設

平成31年 4月 伊豆赤十字病院看護小規模多機能型居宅介護事業所〈レクロス小立野〉開設

令和元年 5月 静岡県赤十字血液センター 静岡市葵区竜南に新築（移転）工事竣工

令和3年 5月 伊豆赤十字病院介護老人保健施設〈グリーンズ修善寺〉を介護医療院へ転換

4 日本赤十字社静岡県支部施設一覧

(令和5年3月31日現在)

施設名	所在地	電話番号
日本赤十字社静岡県支部	〒420-0853 静岡市葵区追手町 44-17	054-252-8131
静岡赤十字病院	〒420-0853 静岡市葵区追手町 8-2	054-254-4311
しずおか日赤訪問看護ステーション	〒420-0032 静岡市葵区両替町 1-7-5	054-254-4500
浜松赤十字病院	〒434-8533 浜松市浜北区小林 1088-1	053-401-1111
日赤訪問看護ステーション	〒434-8533 浜松市浜北区小林 1088-1	053-585-3676
伊豆赤十字病院	〒410-2413 伊豆市小立野 100	0558-72-2148
伊豆赤十字病院介護医療院	〒410-2413 伊豆市小立野 100-2	0558-74-3300
訪問看護ステーション伊豆日赤	〒410-2413 伊豆市小立野 100-2	0558-72-8337
看護小規模多機能型居宅介護事業所 レクロス小立野	〒410-2413 伊豆市小立野 100-2	0558-72-0960
引佐赤十字病院	〒431-2213 浜松市北区引佐町金指 1020	053-542-0115
裾野赤十字病院	〒410-1118 裾野市佐野 713	055-992-0008
訪問看護ステーション すその日赤	〒410-1118 裾野市佐野 713	055-993-5070
静岡県赤十字血液センター	〒420-0804 静岡市葵区竜南 1-26-19	054-247-7141
青葉出張所 (献血ルーム・あおば)	〒420-0035 静岡市葵区七間町 8-20 毎日江崎ビル 6F	054-272-5858
静岡県赤十字血液センター沼津事業所	〒410-0302 沼津市東椎路春ノ木 567	055-924-6611
柿田川出張所 (献血ルーム・柿田川)	〒411-0907 駿東郡清水町伏見 58-26	055-991-7575
静岡県赤十字血液センター浜松事業所	〒435-0003 浜松市東区中里町 1013	053-422-1113
浜松駅前出張所 (献血ルーム・みゅうず)	〒430-0928 浜松市中区板屋町 110-5 浜松第一生命日通ビル 1F	053-413-2070
伊豆供給出張所	〒410-2413 伊豆市小立野 100	0558-73-2700

5 医療施設概況

(令和5年3月31日現在)

病院名		静岡赤十字病院	浜松赤十字病院	伊豆赤十字病院	引佐赤十字病院	裾野赤十字病院
所在地		静岡市葵区追手町8-2	浜松市浜北区小林1088-1	伊豆市小立野100	浜松市北区引佐町金指1020	裾野市佐野713
開設年月日		昭和8年6月11日	昭和13年3月17日	昭和9年7月1日	昭和21年6月1日	昭和17年11月1日
病床数	許可病床	465床	312床	94床	99床	104床
	実働病床	465床	312床	94床	99床	104床
診療科		28科	23科	7科	3科	7科
		内科 血液内科 糖尿病・代謝内科 精神科 脳神経内科 リウマチ科 呼吸器内科 消化器内科 循環器内科 小児科 呼吸器外科 外科 整形外科 形成外科 脳神経外科 心臓血管外科 皮膚科 泌尿器科 産婦人科 眼科 耳鼻咽喉科 頭頸部外科 消化器外科 病理診断科 放射線科 リハビリテーション科 麻酔科 救急科	内科 呼吸器内科 消化器内科 循環器内科 小児科 外科 肛門外科 血管外科 乳腺外科 整形外科 脳神経外科 形成外科 皮膚科 泌尿器科 産婦人科 眼科 耳鼻咽喉科 麻酔科 放射線科 リハビリテーション科 歯科口腔外科 精神科 病理診断科	内科 精神科 小児科 外科 整形外科 泌尿器科 婦人科	内科 整形外科 リハビリテーション科	内科 外科 整形外科 婦人科 脳神経外科 放射線科 リハビリテーション科
特色※		救命、工拠、臓、地災、地援、訪	工拠、地災、地援、訪、包	介医、訪、療、包、看多機	療	感、訪、包
救急告示日		昭和41年3月31日	昭和41年10月1日	昭和41年11月25日	—	昭和43年11月29日

※救命：救命救急センター 工拠：エイズ治療拠点病院 臓：臓器提供施設 地災：地域災害拠点病院

地援：地域医療支援病院 感：第2種感染症指定医療機関 介医：介護医療院 訪：訪問看護ステーション

療：療養病床 包：地域包括ケア病棟・病床 看多機：看護小規模多機能型居宅介護

変わりゆく未来へ

赤十字の挑戦

誰一人取り残さない救援

災害に強い地域づくり

地域で真に必要とされる
社会活動

高度医療・超少子高齢社会に挑む
地域の中核病院

血液事業を通じた
医療・健康増進への貢献

ボランティア主体の
事業展開

被支援者の側に立った
選択と集中



VISION
日赤150

日本赤十字社 長期ビジョン

人間を救うのは、人間だ。



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society



この印刷物は、みなさまからいただいた資金で作っています。